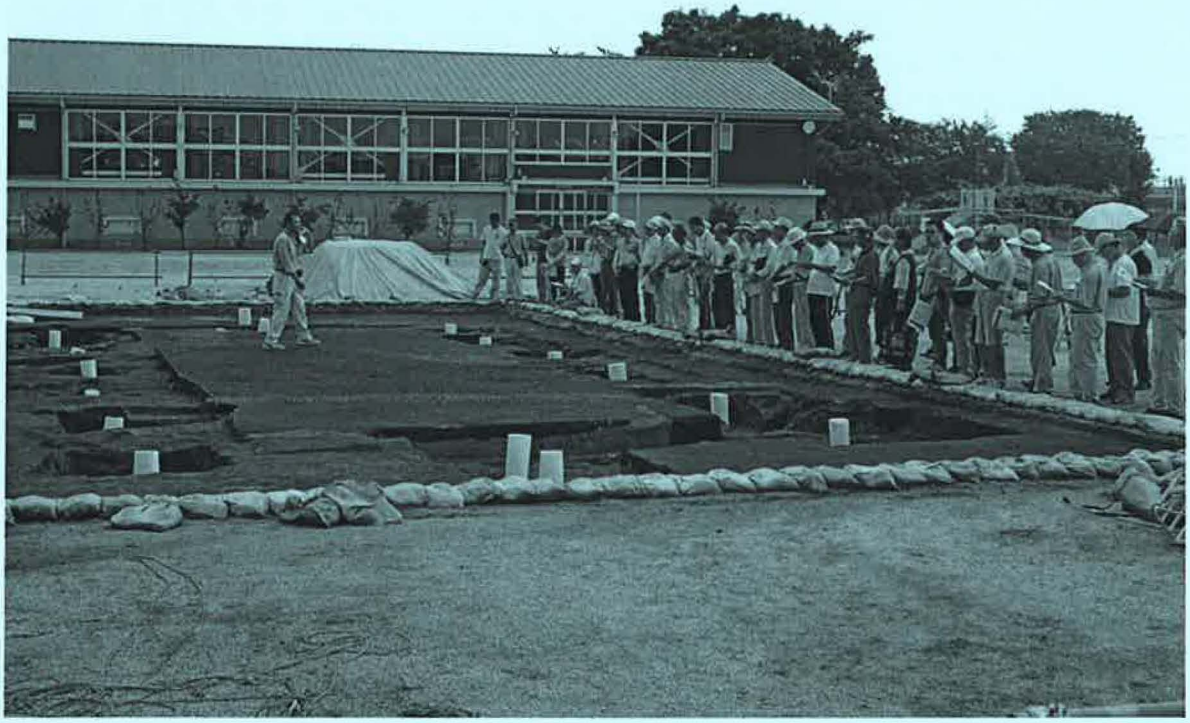
年　報 第４６集

平成２７年度文化財調査報告書



前橋市教育委員会

はじめに

平成 27 年度は、NHKの大河ドラマ「花燃ゆ」に始まり、花燃ゆで暮れた一年でした。

「花燃ゆ」のドラマの主人公の一人である楫取素彦との関係が深い、文化財保護課が所管する「臨江閣」は多くの来場者で、賑わいました。この機会に、教育委員会事務局では、それぞれの部署で、幕末から、明治にかけて、前橋の発展に尽くした人たちやその事績についてクローズアップする取り組みが行われ、臨江閣はその発表の場ともなりました。本来なら、この年から手がけるはずであった、臨江閣の修復整備工事事業を 1 年延期しての取り組みでしたが、大変多くの来場者の方に喜んでいただけたようです。重要文化財「阿久沢家住宅」の整備事業も、管理棟、駐車場が完成しいよいよ本格的な活用がスタートすることとなりました。また、長年懸案であった総社歴史資料館も建物が竣工し、いよいよ、展示の造作が始まります。

調査事業では、天然記念物「岩神の飛び石」の環境整備事業や市内の蚕糸業に係る歴史的建造物等調査事業など、前橋の新しい魅力を探る試みが続けられています。

文化財保護課は多くの事業を成し遂げ、着実な成果を上げた一年でした。

平成２８年 ３月 ２０日

前橋市教育委員会

教育長　佐藤　博之

目次

はじめに

第１章　文化財調査委員による調査
　　１　樹木調査
　　２　建造物調査
　　３　歴史資料調査
　　４　その他
第２章　市指定文化財・新登録有形文化財
　　１　前橋藩酒井家前橋城絵図　附　上野国絵図ほか関係資料
　　２　旧本間酒造店舗兼主屋
　　３　旧本間酒造酒蔵及び釜屋
第３章　文化財保護事業
　　１　保護管理運営事業
　　２　整備事業
　　３　普及事業
第４章　埋蔵文化財事業
　　１　埋蔵文化財発掘調査事業
　　２　市内遺跡等発掘調査事業
　　３　遺跡台帳整備事業
　　４　埋蔵文化財資料整備事業
　　５　文化財資料管理
　　６　上野国府等保存整備事業
あとがき

第１章　文化財調査委員による調査

今年度は、以下 8件 の文化財調査委員に よる調査を実施した 。

1　音羽倶楽部クワの木 調査

（1）日　　時　　平成 27 年 4 月 20 日（月）
（2）調査対象物件　　クワの木（音羽倶楽部内）
（3）調　査　者　　片山委員
（4）概　　要

音羽倶楽部の依頼により実施。敷地内に桑の群生地があり、中には巨木に類するものもあるとのことを受け確認調査を行った。結果として巨木該当する桑は存在しなかったが、桑の木の分布状況や、枝の生え方の特徴から、当地がかつて養蚕農家の桑場のひとつであったのではないかと推測された。音羽倶楽部に対しては、当地の活用の過去の経緯を知る資料が桑の木にあるかもしれないので、大切にしてほしい旨を伝えた。

2　建造物調査

（1）日　　時　　平成 27 年 4 月 24 日（金）
（2）調査対象物件　　旧本間酒造店舗兼主屋
旧本間酒造酒蔵及び釜屋旧
大竹酒造煉瓦蔵
（3）調　査　者　　村田委員
文化庁　武内主任調査官
（4）概　　要

登録文化財登録申請候補物件について文化庁担当官を招聘し、今後の申請の留意点及び調査の進め方などについて指導を受けた。

3　建造物調査

（1）日　　時　　平成 27 年 9 月 8 日（火）
（2）調査対象物件　　旧大竹酒造煉瓦蔵
（3）調　査　者　　村田委員
（4）概　　要

登録文化財申請候補物件の調査の進捗確認と報告書の内容について指導助言が行われた。

4　建造物調査

（1）日　　時　　平成 27 年 9 月 24 日（木）

（2）調査対象物件　　旧大竹酒造煉瓦蔵

（3）調　査　者　　村田委員

（4）概　　要

登録文化財申請候補物件の調査報告書の内容の最終確認が行われた。

5　歴史資料調査

（1）日　　時　　平成 27 年 9 月 30 日（水）

（2）調査対象物件　　前橋城絵図等　38 点
（前橋市立図書館所蔵）

（3）調　査　者　　井上委員　能登委員
岡田委員

（4）概　　要

前橋市立図書館で所蔵されている前橋城関連絵図（ 酒井時代～ 松平時代）38 点について、現況の確認と今後の保存活用について指導助言をいただく。特に、酒井時代の城絵図については痛みがひどいものがあり、対応についても協議いただいた。

6　市内文化財調査（ 樹木等巡検）

（1）日　　時　　平成 27 年 10 月 29 日（ 木）

（2）調査対象物件　　市内指定天然記念物

（3）調　査　者　　能登委員、大森委員、

（4）概　　要

担当調査委員交代に伴い市内に所在する天然記念物（指定樹木を中心に） の所在と現況を把握するために実施。巡検では、国天「横室の大カヤ」の管理の在り方（除草の在り方など） 、市天「沼の窪のザゼンソウ」の獣害（イノシシと思われる） などが、確認された。本調査で確認された事柄については、それぞれの所有者あるいは管理者に状況を報告し 、対応について指導を行った。

7　古文書調査

（1）日　　時　　平成27年11月16日（月）

（2）調査対象物件　　大徳寺所蔵文書　54点

（3）調　査　者 岡 田 委 員

（4）概　　要

今年度 、市補助で実施されてい る「大徳寺総門保存修理事業 」に関連して実施した。本寺の文書調査は、 昭和 50 年に市文化財調査委員により行われ「 大徳寺所蔵文書 56 点」として目録が作成されていたものである。しかしながら、その後40年、確認調査がされたことがなく、また、所有者も代替わりし、状況を把握してなかったことを受け、現況確認という意味から本調査を実施した。
調査では、以下のことが確認され、所有者に保存上の指導助言がなされた。

① 1 点文書が不明となっているが、 おそらく他の文書にまぎれていると思われる。見つかったら元のところに一緒にしておいて欲しい。

②保管方法について。文書ごとに封筒に入れて保管するとより良い 。現状は文書を一括して紙で包んで保管してあるため、何がどこにあるのか分かりつらい。封筒 の紙質は中性紙が望ましいが、なかなか高価であるので普通の封筒でも構わない。

③文書の状況は大変良い。これからも、引き続き保存管理についてご協力を願いたい。

8　市内文化財調査

（１）日　　時　　平成27年12月22日（水）

（２）調査対象物件　　昭和54年に龍海院から購入した絵図（前橋城絵図等）14点

（３）調　査　者　　井上委員　大森委員　能登委員　岡田委員　村田委員

（４）概　　要

対象となった物件は、昭和 56 年に龍海院より購入された「酒井家龍海院所蔵資料675点 」に含まれていた前橋城絵図を中心とする絵図類であり、現在これらは、前橋市立図書館に保管されている。絵図類は 14 件20 点ほどあり、本調査では、これらの現況把握と今後の保存活用について協議された。

なお、龍海院より購入された 675 点のうち 129 点はすでに市指定重要文化財「酒井家史料」として昭和58年 4 月25日に指定を受けている。

第２章　新指定の文化財・新登録文化有形〔建造物〕文化財

今年度は、新指定文化財として重要文化財「前橋藩酒井家前橋城絵図 附 上野国絵図ほか関係資料」が指定された。また、新登録文化財として「旧本間酒造これにより市指定文化財の総数は２４　４ 件となった。以下は新指定文化財の概要である。

新指定文化財１４件２　０点の一覧及び写真は、別頁の通り。

１　前橋藩酒井家前橋城絵図　附　上野国絵図ほか関係資料

区　　分　　前橋市指定重要文化財

指定年月日　　平成 28 年 3 月 15 日

員　　数　　１４件２０点

所在場所　　前橋市大手町二丁目 12-9　前橋市立図書館

所有者及び管理者　　前　　橋　　市

概　　要

『前橋藩酒井家前橋城絵図 附　上野国絵図ほか関係資料』は、昭和 55 年 10 月 20 日付けで前橋市長（ 当時）と龍海院住職（ 当時）との間で売買契約により購入された総点数６７　５点（ 一括購入）に含まれるものである。本資料は購入後、前橋市立図書館において保管されている。

『前橋藩酒井家前橋城絵図　附　上野国絵図ほか関係資料』の 14 件 20 点は、近世江戸時代前期酒井氏時代の城普請の様子、利根川普請及びその計画を記したものや利根川川の浸食によって変わり行く前橋城の様子、寛文期のものと推測できる上野国絵図が含まれており、本市に残る数少ない近世前期の「前橋城」や「前橋城と利根川の川普請のあり方」、「前橋城下の様子」等を窺い知る貴重な資料といえる。以下に、主な絵図を紹介する。

Ｎｏ 11「前橋城絵図」。（No はリスト番号。以下同じ）　206ｃｍ×205ｃｍ の紙本著色の城絵図である。家臣の屋敷割りや坪数、城の建物などが克明に描かれている。これまでの調査では、元禄期以前の城絵図とされていたが、今回の調査で、記載されている家臣名、附箋に書かれた「従先年 酉 8 月 14 日迄此所　欠」の記載。附箋の下の城絵図の記載、記載された角櫓が５ 基であることなどから、寛文 6 年以前の城絵図であることが明らかになった。現存する最古の前橋城絵図である。

No5「利根川変流図」。239ｃｍ×121ｃ　ｍの折本であり、「名倉八兵衛見分之新堀絵図」の記載が認められる。年代の記載が無いが、利根川の流路を変えるための「新堀」の計画や「出し」（流勢を抑制するもの）の設置計画などが記載されている。酒井家史料にある元禄から宝永年間の利根川の瀬変に関係する記述を反映したものと思われる。

No8「上野国絵図」　366ｃｍ×574ｃｍ の大形紙本著色の国絵図である。過去の調査では、現在、群馬県の重要文化財として指定を受けている「元禄上野国絵図」の写しと考えられてきたが、今回の調査で、絵図に記載されている村石高数が寛文郷帳の数値と一致することが判明した。このことから本絵図は、元禄期より古い寛文期に作成された上野国郷帳に関係する国絵図であることが明らかとなった。元禄期以前の国絵図は、現存するものが少なく、県内ではおそらく本絵図が唯一と思われる。現在、国立公文書館内閣府文庫と京都府立総合資料館所蔵のものが酷似していると考えられるが、今後詳細な調査が必要である。

ただ、これら 14 件 20 点の中には、上野国絵図や前橋市街図のように前橋城絵図以外の絵図や時代的に新しいものも含まれている。しかしながら、これら絵図が酒井氏の菩提寺でもある龍海院から一括で購入された絵図であり、前橋藩酒井家に由来する資料（絵図）

である。したがって、これらの資料を前橋城絵図のみで分断指定するのではなく、前橋城絵図を中心とする酒井家に由来する一連の絵図資料として一括として扱うこととした。

このようなことから、資料の重要性に鑑み、今後、貴重な文化財の保存に万全を期すためにも、重要文化財指定を行ない、保護を図る必要性が極めて高い物件である。

【指定理由】

本市の近世前期における前橋城及び城下の様子、県内の様子を記録した貴重な絵図資料である。本市が所有してきた前橋藩関連の資料と共に近世前橋城及び本市内外の当時の様子を今に伝える重要な資料である。

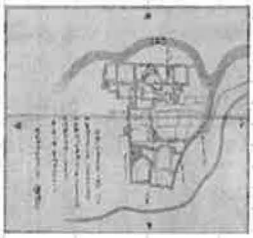
各絵図の概要一覧

No	図書館整理 No	名称	年代	概要	方寸
1	ｻｶｲ 1-1	前橋城絵図	寛文 6 年 9 月 16 日	土居修理工事申請の副図、写し	132.5c × 130.5cm
2	ｻｶｲ 1-2	前橋城絵図	延宝 4 年 9 月 19 日		56cm×70cm
3	ｻｶｲ 1-3	前橋侍屋敷之図		大胡城関連絵図。町屋地割及び郊外里程。求知堂の記載があることから1700年以降のものと考えられる。既に大胡城の建物は無く石垣のみの記載となっている。	93cm×133cm
4	ｻｶｲ 1-4	前橋外曲輪御絵図	天和 4 年 12 月 7 日	現況においては、左記年代は確認できない。(傷みのため)	152cm×105cm
5	ｻｶｲ 1-5	利根川変流図	年代不明	「名倉八兵衛見分之新堀絵図」の標記あり。高崎、前橋領境川原絵図。	239cm×121cm
No	図書館整理 No	名称	年代	概要	方寸
6	ｻｶｲ 1-6	前橋市街図	大正 13 年 昭和 4 改	煥乎堂発行。裏に市街 地の写 真 あり。	54cm×79cm
7	サ カ イ 1-7-1	前橋領 図同写	年代不明	村別に彩色。元禄期あるいはそれ以前か。一部補修あり。	124cm×179cm
8	サ カ イ 1-7-2				178.5c × 120.5cm

9	サカイ 1-7-3				75cm×168cm
10	ｻｶｲ 1-8	上野国絵図	寛文期？	郡別色別は村高表示。村高は寛文郷帳の記載と一致。寛文期の国絵図は希少であり、同じものは県内にはない。また、現上野村のあたりの記載法は独特であり、これと同じ記載法のものが京都府立総合資料館にある。	366cm× 574cmとある)
11	ｻｶｲ 1-9	前橋城図	寛文 9 年以前、寛文 6 年を前後するころ？	松平内記の屋敷有り。好古堂の記載なし。彩色一間四方。	206cm×205cm
12	サカイ 1-10	前橋城図	貞享 4 年 8 月 13 日	用水堀工事絵図	94cm×85cm
13	サカイ 1-11	江戸城絵図		江戸初期のものか。大名屋敷表示あり。	270cm×206cm
14	サカイ 1-12-1	前橋城 絵図		宝永以降。城修復の副図。	119.5cm × 118cm
15	サカイ 1-12-2				117cm×117cm
16	サカイ 1-12-3				94cm×111cm
17	サカイ 1-13-1	前橋城 絵図		元禄以前のものか。家臣の名前なし。下絵図曲輪区分のみ。	94cm×111cm
18	サカイ 1-13-2				81.5cm×83cm
19	サカイ 1-13-3				152cm×177cm
20	サカイ 1-14	対馬守御本陣絵図		播州室津宿か。	127cm×138cm

No.1

No.2



No.3

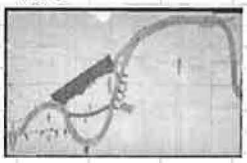
No.11

No.12

No.13

No. 4

No. 5



No. 6

No.14

No.15

No.16

No.7

No.8

No.9

No.17

No.18

No.19

No.20

No.10

2　国登録有形（建造物）文化財　旧本間酒造店舗兼主屋

区　分	国登録有形（建造物）文化財
登録年月日	平成２８年２月２５日
所在地	前橋市総社町総社字屋敷南乙１５００番地
所有者	前橋市
構造・形式及び大きさ	木造２階建　瓦葺　建築面積 232 ㎡
建築年代	大正 12 年
該当する登録基準	（１）国土の歴史的景観に寄与しているもの

概　要　木造 2 階建、入母屋造瓦葺、東に店舗、西に水回りを下屋で配し、北側に平屋を張り出す。張出部は痕跡等から後補である。小屋組は和小屋であり 2 階の軒を船枻造 とする。外壁は白漆喰塗り、内部は壁を白漆喰塗、天井を大引天井（ 直天）または竿縁天井とする。規模は桁行 19.72m、梁間 14.08m、軒高 6.53m、床面積は 1 階 232.40 ㎡（ 建築面積）、2 階 145.57 ㎡、計 377.97 ㎡である。

1階平面をみると、土間部は「シタミセ」を店舗・接客部分とし、南側を通り庭とした町家形式となっている。当時「シタミセ」では立飲（イノミ）もされ、酒造廃業後も近年まで小売りを行っていた。北側は住宅用玄関となっている。床上部は「ザシキ」「ゲンカンノマ」「ナカザシキ」「ブツマ」「ショクジバ」の6居室を配す。「ザシキ」「ゲンカンノマ」「ナカザシキ」は四方を欅の指鴨居（せい1.25尺及び1.38尺）で構成している。北側張出部には「ショイン」と「ナンド」を設ける。この張出部は、居住部屋根との取合い、張出屋根に見られる照り、鬼瓦の文様の差異、1階にみられる柱寸法および柱間寸法の違いから後補であると考えられる。増築年代を示す資料を残していないが、経年変化等の状態をみると主屋建造後の間もない時期であると推定する。

2階は居室を7室設け東と南に鉤手の廊下が付く。廊下の開口部は雨戸が嵌められ内側に手摺を設ける。改造痕から西側の6畳と4畳は一室であった。北西隅の洋室は近年に窓・仕上げを改装した。また小屋組をみると、随所に古材が利用されている。

当建物は、建造年を直接示す棟札等資料を残していないが、公簿等資料から大正 12 年(1923)である。また関係者等への聞取りにおいても大正 12 年建造であって、これらのこと及び建築的特徴から、当建物は大正 12 年の建造と考えられる。

主屋を南側から見る

主屋外観全景　東道路から見る

せがい造りの様子

主屋内部シタミセの様子

3　国登録有形（建造物）文化財　旧本間酒造酒蔵及び釜屋

区　　分	国登録有形（建造物）文化財
登録年月日	平成２８年２月２５日
所在地	前橋市総社町総社字屋敷南乙１５００番地
所有者	前橋市
構造・形式及び大きさ	土蔵造二階建及び木造平屋建　瓦葺　建築面積 524 ㎡
建築年代	大正期
該当する登録基準	（１）国土の歴史的景観に寄与しているもの

概　要　当建物は「ホングラ」「カマヤ」「オロシ」から成り、一体として建てられている。「ホングラ」は土蔵造 2 階建・切妻造瓦葺、東側「カマヤ」は木造平屋・切妻造瓦葺、南側・下屋の「オロシ」は木造平屋・片流造瓦葺である。小屋組はすべて和小屋である。外壁は白漆喰塗り、「ホングラ」腰及び「カマヤ」東面を押縁下見板張とする。内部は床をコンクリート土間、壁を白漆喰塗とする。規模は桁行 33.76m、梁間 16.00m、建築面積が523.82　㎡である。「ホングラ」「カマヤ」「オロシ」は、それぞれ独立した構造となっており、「ホングラ」が桁行 25.03m、梁間 9.39m、軒高 5.60m、床面積は 1 階 235.03 ㎡、2 階114.12 ㎡、計 349.15 ㎡。「カマヤ」が桁行 8.73m、梁間 14.11m、床面積は 123.32 ㎡。「オロシ」が桁行 25.03m、梁間 6.61m、床面積は 165.47 ㎡である。「ホングラ」の 1 階は広い土間空間である。梁間方向の中央部 4.23m の範囲で両妻まで 2 階を設け、南及び北側は桁通りまでの間を吹抜けとする。2 階で酒母づくり、吹抜下の 1 階では酒造桶を並べ仕込み作業を行った。柱のモデュールは 3 尺 3 寸であり、桶を並べるのに無駄の無い寸法になっている。「カマヤ」には「アライバ」「カマバ」「ヒロシキ」を設ける。洗米、蒸米を行い、「ヒロシキ」は杜氏たちの休憩や寝泊まりに使われた。「カマバ」は床を掘り下げてあり、竈の排気を「カマヤ」東にあった煙突で行ったと伝える。また「アライバ」の給水は主屋の南西にある井戸水を利用した。「オロシ」については、はっきりした用途は確認できないが上述した作業の一連として使われていたと考える。

建造年については、ホングラが大正12年(1923)、カマヤが大正 5 年(1916)の建造である。オロシは基礎布石等の納まりからホングラ建造後の間もない時期と推定できることから、当酒造施設は大正期の建造とみるのが妥当と考えられる。

酒蔵　正面

左に「酒蔵」
右に「釜屋」

オロシ内部

酒蔵内部

第３章　文化財保護事業

１　保護管理運営事業

(1)　国有文化財管理

国有文化財天川二子山古墳と総社二子山古墳の２箇所について実施した。見廻り看視、清掃等の日常管理については、自治会役員を国有文化財看視人として委託した。落枝の処分については、担当者が定期的に行った。定期除草は、天川二子山古墳は前橋市シルバー人材センターに、総社二子山古墳は「みんなの店運営委員会」に業務委託し、それぞれ２回実施した。

(2) 国・県・市指定文化財管理

市が管理する史跡等について、地元自治会、シルバー人材センター及び業者に委託し、環境美化に努めた。

①　史跡の樹木管理

女堀（冨田地区・東沼・西沼南側）・宝塔山古墳・愛宕山古墳・大胡城跡・不二山古墳・阿久沢家住宅・前二子古墳で樹木伐採、蛇穴山古墳・天川二子山古墳・宝塔山古墳・総社二子山古墳で樹木剪定、前二子古墳・中二子古墳・総社二子山古墳で倒木撤去を行った。

国指定史跡女堀二之宮町２２８－１他の竹片付けの業務委託を行った。

実施期間 27 年5 月15 日～6 月28 日

実施場所 女堀西沼 1,560 ㎡

②　その他の環境整備

二之宮町女堀・大胡城跡・中二子古墳でススメバチ等が発生したため、駆除を行った。

市が直接管理する国指定史跡４ヶ所の樹木に発生する害虫アメリカシロヒトリの防除を行なうため、オルトランカプセル(樹木注入型殺虫剤)の樹幹注入を職員により実施した。

(イ)実 施 日 平成27 年6 月24（火）

(ロ)実施場所

①天川二子山古墳②総社二子山古墳

③宝塔山古墳 ④蛇穴山古墳

⑤大胡城跡

(ハ)樹木本数 90 本(五ヶ所合計)

除草業務一覧表

	史跡名	区分	所在地	延除草面積（㎡）
1	車橋門跡	市指定	大手町2-5-3	750
2	亀塚山古墳	市指定	山王町1-28-3	4,968
3	金冠塚古墳	市指定	山王町1-13-3	4,814
4	今井神社古墳	市指定	今井町818	4,624
5	八幡山古墳	国指定	朝倉町四丁目9-3	33,708
6	宝塔山古墳	国指定	総社町総社1606	2,204
7	蛇穴山古墳隣接地	国指定	総社町総社1587-2	5,674
8	総社古墳隣接地		総社植野365-2	792
9	女堀	国指定	富田・東大室・二之宮・飯土井他	83,280
10	天神山古墳	県指定	広瀬町一丁目27-7	730
11	不二山古墳	市指定	文京 町三丁目151-6	1,142
12	大日塚古墳	市指定	五代町214	1,124
13	荒砥不二山古墳	県指定	西大室町813-2 他	2,700
14	大胡城跡	県指定	河原浜町660-1	24,934
			急傾斜地 660-31,32	5,000
15	堀越古墳	県指定	堀越町861-1	582
16	遠見山古墳	市指定	総社町総社1410	3,886
17	阿久沢家住宅	国指定	柏倉町604	2,400
18	膳城跡	県指定	粕川町膳83-2	2,114
			合計	185,426

(2) 文化財の保護

① 市内所在の文化財の異動

群馬県指定重要文化財「横室歌舞伎衣裳」が平成27 年12 月24 日付けで前橋市に寄託され、管理責任者及び所在場所に異動があった。

【寄託日】平成27 年12 月24 日

【対象物件】群馬県指定重要文化「横室の歌舞伎衣裳」及び附属衣裳・道具類

【対象員数】530 点

（※指定文化財15 点含む）

【所在場所】岩神町三丁目1-1

前橋市総合教育プラザ

【所有者等】所有者：横室歌舞伎保存会

管理者：前橋市

② 指定文化財の現状変更について

今年度の現状変更は、国指定文化財が 4 件、県指定文化財が1 件、市指定文化財が 4 件であった。詳細は一覧の通り。

種別	指定名称	内容
国史	女堀	女堀西沼法面保護工事
国天	岩神の飛石	飛石本体岩石を一部採集し、年代測定機器（熱ルミネセンス法）で、放射線による年代測定実施
県重文	総社本上野国神明帳	神明帳修復
県重文	臨江閣本館	シロアリ被害箇所補修
県重文	臨江閣本館	大雪破損箇所修復
県重文	臨江閣本館	冷暖房消火設備設置工事
県史	前橋天神山古墳	旧展示室撤去及びフェンス改修
県天	三夜沢赤城神社のたわら杉　３本	枯枝の剪定。音波検査で杉の内部の腐朽状態調査実施
市重文	大徳寺総門	解体修理工事前調査
市重文	文政四年前橋町絵図	絵図補修
市重文	臨江閣別館付棟札及び渡廊下	屋根工事、耐震補強、基礎工事等改修工事
市史跡	牧野家墓地	地震倒壊部保存修復

③ 寄附の受入

平成２７年度は、以下４件の貴重な文化財資料等を受け入れた。

○前橋市蚕糸記念館の建築模型

（県指定重要文化財旧蚕糸試験場事務棟）

○御殿飾り雛、人形（２体）

○まぶし織機

○御神幸の輿・御神体（御神幸の輿に安置するもの）

○雛人形 二体（１対） 他

○木製タバコ盆セット・絵ハガキ

④　防火査察及び文化財防火訓練

ア 防火査察

４１件の文化財査察対象物に対して９班編成を組み、前橋市消防局(各消防署)及び東京電力㈱等と協力して、合同立入査察を実施する予定であったが、１班から９班のうち、１・２・５・９班が積雪のため検査中止となり、２２件の査察となった。

○平成２８年１月１９日(火)

≪第６班南消防署：２施設≫

円満寺薬師如来座像（後閑町　円満寺)、駒形午頭天王の獅子頭一対（駒形町　駒形神社)

査察の様子

≪第７班南消防署：６施設≫慈照院千手観音坐像（二之宮町　慈照院)、二宮赤城神社絵馬・梵鐘・納曽利面（二之宮町　二宮赤城神社)、無量寿寺地蔵菩薩立像・十一面観音立像（二之宮町　無量寿寺)、旧関根家住宅（大室公園)、産泰神社本殿・幣殿・拝殿・神門及び境内地（下大屋町　産泰神社)、旧アメリカンボード宣教師館（小屋原町　共愛学園)

≪第８班北消防署：３施設≫

日輪寺寛永の絵馬・十一面観世音像（日輪寺町　日輪寺)、鉄造阿弥陀如来坐像（端気町善勝寺)、前橋市藩家老小河原左宮の甲冑附旗差物（荒牧町)

≪第９班北消防署：４施設≫積雪のため中止

珊瑚寺の板碑と多宝塔（富士見町石井　珊瑚寺)、萩林庵の阿弥陀像（富士見町原之郷)、原西の阿弥陀像（富士見町原之郷)、時沢の仁王と多宝塔（富士見町時沢)

○平成２８年１月２０(水)

≪第１班中央消防署：５施設≫積雪のため中止

梵鐘（千代田町三丁目　妙安寺）、臨江閣本館・茶室・別館（大手町三丁目）、前橋藩主松平家奉納能装束一式（大手町三丁目東照宮）、酒井家史料<129　点>・前橋祇園祭礼絵巻<二　巻>（市立図書館）、酒井重忠画像（大手町三丁目源英寺)

≪第２班中央消防署：７施設≫積雪のため中止

旧蚕糸試験場事務棟（敷島公園ばら園）、神明宮の甲冑・奈良三彩小壺（総合教育プラザ）、東福寺鰐口（三河町一丁目東福寺）、石造薬師三尊立像（亀泉町）、上泉郷蔵附上泉文書・上泉の獅子舞（上泉町）、横室の歌舞伎衣装（総合教育プラザ）、八幡宮文書（一巻九通）伯牙弾琴鏡（本町二丁目　八幡宮)

≪第５班西消防署：４施設≫積雪のため中止

光厳寺薬医門・打敷・油単並びに幡（惣社町総社　光厳寺）、上野総社神社本殿・他（総社町一丁目　総社神社）、徳蔵寺懸仏・麻本著色両界曼荼羅一対（元総社町一丁目　徳蔵寺）、大徳寺総門・多宝塔（小相木町　大徳寺)

○平成２８年１月２１日(木)

≪第３班東消防署：６施設≫

堀下の仏像群（堀越町)、旧諏訪神社の宝物・堀越掛舞台下座一対（堀越町)、大胡神社の算額

(河原浜町　大胡神社)、阿久沢家住宅（柏倉町)、柏倉諏訪神社の歌舞伎舞台・他（柏倉町　諏訪神社)、狂歌合わせの額・他（市之関町　住吉神社)

≪第４班東消防署：５施設≫

込皆戸三番叟人形一括（前橋市粕川出土文化財管理センター)、木造十一面観音立像（粕川町女渕　観音堂)、三夜沢赤城神社本殿内宮殿（三夜沢町　赤城神社)、金剛寺木造十一面観音坐像・他（苗ヶ島町　金剛寺)、近戸神社御輿・他（粕川町月田　近戸神社)

イ 文化財防火訓練

臨江閣で１月２４日に予定されていた防火訓練は積雪のため中止となった。

⑤文化財パトロール

市内を１０地区に分け、各地区に文化財保護指導員 を配置し、指定文化財のパトロールを行った。月１度 の報告により除草や修理の対応をした。第１回会議は 平成２７年４月２７日に行い、平成２７年１２月８日 の第2 回会議では文化財パトロールの上半期の報告と、上野三碑の見学を行った。

上野三碑の見学

(3) 前橋市蚕糸記念館の管理・活用

県指定重要文化財である旧蚕糸試験場事務棟を敷島公園ばら園内に移築し、昭和５７年４月に前橋市蚕糸記念館として一般公開した。
開館日の管理は、前橋市シルバー人材センターに　委託し、見学者の受付や館内外の清掃を行っいる。

このほかの管理業務として、消防設備保守点検、 樋及び周辺清掃業務をそれぞれ専門業者に委託した。

建物内の４つの展示室(①開所当時の様子を示す資料②はき立てから繭出荷までの養蚕具③上州座繰器をはじめとして製糸業に用いる用具器械④機織り機や養蚕信仰の資料)において資料を展示し、蚕糸業とともに歩んできた前橋の近代化を偲ぶ記念館として公開している。

春のばら園まつり、秋のバラフェスタの開催に合せて、富岡製糸場世界遺産伝道師協会の協力を得て、座繰り体験・桑の木クラフト体験を数回行っている。開館日は、４月～１１月の土・日・祝日（ばら園まつり・バラフェスタ開催期間中は毎日）で本年度の来館者は６，３５５人であった。

座繰り、桑の木クラフト体験の様子

(5)　総社資料館の管理・活用

前橋市総社資料館は、今年度も引続き総社公民館敷地内の代替施設内で対応を行った。

見学対応にあたっては地元で組織されている説明員の会に委託を行っており、現在の代替施設では、主に秋元氏や天狗岩用水に絞り込んだ内容の案内や説明を市内の小学４年生を中心に行った。また、一般の来館者には希望に応じて、総社地区の古墳の説明や付近の古墳の案内にも応じた。

説明員の会には、当面の施設縮小に伴い、施設近隣の史跡の清掃も依頼した。月２～３回、２人ずつ、年間３０回程度実施した。

開館日数は２８日、来館者数は２，１５７人。

３９の団体・個人・学校の見学対応を行い、そのうち学校見学は、３７校２，１３３人であった。

３月には説明員の研修会を実施した。今回は、高崎市・藤岡市の文化財や関連施設を対象として、上野三碑（多胡碑・山上碑・金井沢碑）・山上古墳・多胡碑記念館・藤岡歴史館・七輿山古墳・伊勢塚古墳を視察した。現地での見学では、解説や説明を聞きながら見聞を広めることができた。また、資料館での展示物の解説や説明の方法など、今後の案内や解説の参考となる実りの多い研修となった。

説明員の会視察研修（多胡碑）

(6) 前橋市粕川歴史民俗資料館の管理・活用 粕川歴史民俗資料館は、大胡、宮城、粕川地区などの赤城南麓地域の歴史や民俗が学習できる施設として活用している。今年度は春季と秋季に企画展を開催し多くの市民に関心を持っていただくことをねらった。年間の開館日数は199 日入場者数合計1,951 人を数えた。

春季企画展・・・「前橋城絵図の世界 江戸時代の前橋城を知ろう」を開催した。
開催期間は平成27年４月25日から平成27 年9 月27 日までであった。

秋季企画展・・・「赤城山南麓の縄文時代その１ 縄文前期を探る」を開催した。
開催期間は平成27 年10 月31 日から平成28 年3 月6 日までであった。

(7) 前橋市粕川出土文化財管理センターの管理・活用

現在施設は、赤城山南麓の旧町村の出土遺物の収蔵庫、隣接する粕川歴史民俗資料館の収蔵庫として、活用している。施設内の機械警備、小荷物昇降機、浄化糟点検等は、業務委託により引き続き管理を行っている。

(8) 大室公園史跡の管理・活用

一般公開している大室古墳群の石室入口の鍵開閉や日常の保守・点検・清掃等については地元住人に管理業務を委託している。

県内外から多くの見学者が訪れる公園内の古墳群であることから、市民ボランティア「古墳の語り部」が史跡案内等を行なっている。

例年6 月に開催している大室イベントでは、各種体験コーナーを設けているが、本年も座繰り体験等で富岡製糸場世界遺産伝道師協会伝道師の協力を得て好評のうちに開催することができた。

(イ)管理業務実施日は以下のとおり。

4 月から11 月まで:月曜日を除く毎日。

12 月から 3 月まで:土・日・祝日。前二子、後二子石室鍵開け 午前9：00 前二子、後二子石室鍵閉め 午後4：00

(ロ)点検場所

1.前二子古墳 2.中二子古墳 3.後二子古墳 4.小古墳 ※清掃は石室開閉時に実施している。

(ハ)年末年始休業

12 月29 日(月)から1 月3 日(土)まで

(9) 前橋市民家園の管理・活用

民家園外観

引き続きシルバー人材センターに開園日の管理を委託した。

茅葺屋根保存維持のための専門業者による薫蒸は6回実施。

開園日は、4月～11 月（木・金・土・日・祝日）、12 月～3 月（土・日・祝日 ＊年末年始休園）

平成 27 年度の開園日数は 187 日で来園者数は 7,962 人。

「大室イベント」や「大室古墳の教室」各事業での会場、「大室古墳の語り部」ボランティアの活動拠点としても例年同様に利用された。

民家園見学者

(10) 臨江閣の管理・活用

日常管理については、4月から「大河ドラマ花燃ゆプロジェクト」事業として4名の管理人を常駐させ、臨時に本館奥座敷一の間の縁側を出入り口として館内外の清掃と見学者の受付を行った。

休館日　　無休

開館時間　　4月～9月　9時～１８時

１０月～２月　９時～１７時

（入館は閉館３０分前まで）

に変更するなどの対応を行った。

管理人は、前橋市シルバー人材センターへ委託した。

このほかに管理業務の委託では、機械警備業務、消防設備保守点検、雨樋及び屋根清掃を業者委託した。なお、庭内の樹木は、一括管理が効率的判断し、公園管理事務所へ管理の依頼をしている。

9月と3月には、管理人・消防設備点検業者を呼んで、消防訓練を行った。

施設の活用では、「大河ドラマ花燃ゆプロジェクト」事業としては、4月から1月までの期間中、前橋茶 道会による特別茶会（全１２回）開催され、前橋い けばな作家協会によるいけばな飾り付け週3回（全８８回）が行われた。また楫取素彦と文が入籍した 日を記念してセカンドウエディング（臨江閣結婚式）、中核市サミット２０１５in 前橋のレセプション会場として、その他例年通りお茶会、生け花、百人一首（カルタ）囲碁将棋など

に利用された。

展示活用としては、本館に昨年度に引き続き「臨江閣と近代前橋のあゆみ」を開催し、「大河ドラマ花燃ゆプロジェクト」として、本館に「楫取素彦」を中心とするパネル展示をし、別館においても「楫取素彦あゆみ」のパネル展示するなどした。

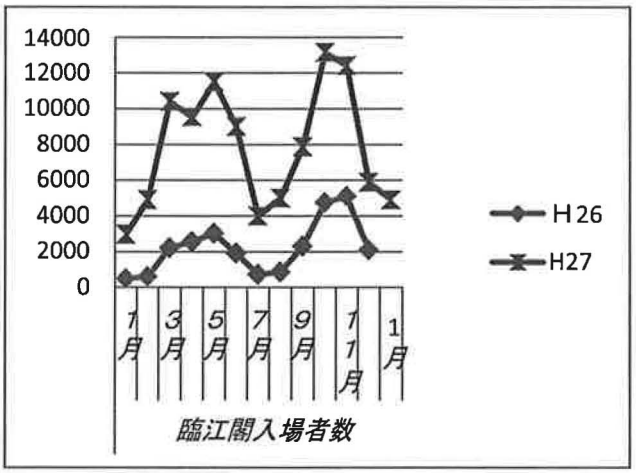
前橋広域物産振興協会運営による「かふぇ あんきな」が別館洋間にて、「食処 あんきな」が臨江閣昼食用の弁当（予約）を別館２階大広間で販売提供した。

見学会は、例年どおりの学校関係、各種団体の学習見学のほかに、メディア等の紹介による効果と、「大河ドラマ花燃ゆ」ゆかりの建物ということで、ツアー客や各種団体のに客が急増した。

撮影は、結婚企画会社や写真館が中心に結婚衣装・七五三・成人式写真等の写真撮影が行われ、１年通して頻繁に利用された。記念写真の撮影場所として広く認知されてきており、昨年に比べるとかなり増えてきている。

雑誌等においても、数多く紹介され、NHK花燃ゆ紀行でも紹介された。

最後に臨江閣への平成２７年度の入場者数であるが、利用・見学・写真撮影など、８５，７９８人であった。



「大河ドラマ花燃ゆプロジェクト」事業により扇風機及び暖房機器を設置した。

保全修理では、茶室の建仁寺垣も腐食により倒壊恐れがあるため、建替えした。屋外ライトアップ照明器具安定器交換工事、漏水修理、屋外汚水管詰り修繕。建物内においては自動火災報知設備 受信機バッテリー及び光電式スポット型感知器交換、照明器具不点箇所の修理等施設の保全に努めた。

今年度の雛人形展は、耐震改修や屋根葺き替え工事、冷暖房設備などの便益設備導入などの修復改修工事のため、平成 28 年3 月1 日から平成 29 年7 月まで閉館する予定のため、展示されなかった。

(11)　阿久沢家住宅の管理・活用

平成23 年度以降近隣住民を中心に「守る会」を立ち上げ、戸の開閉や月2 回程度の清掃・燻蒸を実施している。また、今年度より業者による燻蒸を年６回実施しており、毎日の燻蒸と同等の効果が得られるため、茅葺屋根の適切な保存が期待される。その他、年３回程度の業者による除草のほか、ボランティア団体「七の会」や職員による除草などを実施している。

本住宅の公開・活用は、「阿久沢家住宅保存活用計画」の活用計画を基本方針とし、当地域の生活様式や良好な農村景観を感じることのできる施設として公開するとともに、地域のコミュニティスペースとして積極的に活用を目指す。今後学校教育などの活用についても検討したい。

阿久沢家住宅の燻蒸の様子

(12) 旧本間酒造の管理・活用

平成28 年2 月25 日付けで国登録有形文化財となった旧本間酒造について、今後の整備の前段として、産業廃棄物運搬処理業務・南側敷地の樹木剪定業務を行った。

(13) 刀剣の製作承認及び市有刀剣の管理

６口（太刀５、短刀１）の承認申請があり、すべてを承認した。承認後、県公安委員会及び県教育委員会文化財保護課へ承認した旨を通知した。

本市に寄贈された刀剣を良好な状態で保存するため、毎年実施している専門的な技術者による手入れについ て、今年度は１１月と３月の２回実施した。対象刀剣類は７種５３口。錆がある等、別途委託を要するものは見受けられなかった。

刀剣手入れの様子

(13) その他

三俣庁舎は産業廃棄物運搬処理後に解体工事を行い、市長（資産経営課）に引き継いだ。

大胡収蔵庫のプレハブを解体し、収蔵されていた消防ポンプ車等を鳥羽収蔵庫に移送した。

2　整備事業

(1)　臨江閣整備事業

臨江閣整備改修建築工事を実施するにあたり、優先交渉業者を選定するため、７月に公募型プロポーザルを実施した。参加資格として、市内の建設工事競争入札参加資格有資格者名簿に建築一式工事登録をしている業者で、当該工事種別Ａ等級に格付けされている業者等の条件を付して、申込業者を募集したところ、一社から応募ありましたが、実施要領で定めた工事期間及び工事費上限額を超えていたため、無効となった。

プロポーザルが不調になったため、参加資格を、過去において重要文化財の改修・復原の実績のある業者と市内の建築一式工事登録しているＡ等級に格付けされた業者との共同企業体とし、工事期間や工事費上限額も併せて見直し、１０月に、再度公募型プロポーザルを実施した。結果、一社の共同企業体から応募があり、一次審査を経て、１２月に二次審査を実施し、最優先交渉業者と決定した。

併せて、機械設備工事及び調査記録業務を指名競争入札により決定した。電気設備工事は平成２８年度に契約することになった。

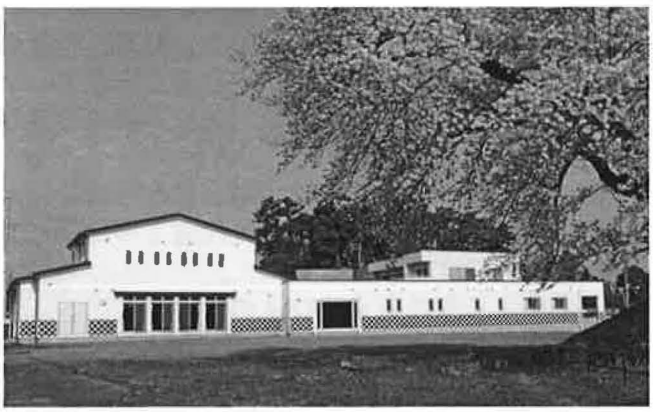
各工事２ヵ年の事業費は次のとおり

建築工事	３８０，３７６，０００円
機械設備工事	４１，５８０，０００円
調査記録業務	３４，５６０，０００円

(2) 総社資料館整備事業

歴史資産の宝庫である総社地区に、ガイダンス施設としての資料館を建設し、学校教育等における体験学習の中心施設として、また、総社地区の文化財見学者にとって利便性の向上を図ることを目的として、平成25 年度より総社資料館の移転新築事業を実施している。

平成27 年度は、前年度行った資料館建築実施設計に基づき、総社資料館移転新築建築工事・機械設備工事・電気設備工事・外構工事を実施した。受託業者は立見建設株式会社（建築・外構）、上毛電業株式会社（電気設備）・興和冷熱株式会社（機械設備）で、工期は平成27 年9 月11 日（建築）・平成27 年9 月24 日（電気・機械）～平成 28 年3 月28 日。なお、建築工事については県費補助を受けて実施した。また、展示制作につ いても、平成26 年度に策定した展示実施設計に基づき、総社資料館展示制作業務を行った。受託業者は株式会 社丹青社で、工期は平成 27 年11 月2 日～平成28 年3 月22 日とし、平成28 年度に繰越とした。資料館のオープンは平成28 年10 月を予定している。



総社資料館外観

(3) 阿久沢家住宅整備事業

平成24 年度に本住宅を公有化して以降、本住宅の公開・活用に向けて、年次計画に沿った整備を実施している。これまで、周辺環境整備（駐車場整備・排水溝の敷設・法留柵設置・敷地復元工事、屋敷林の間伐ほか）や、屋根葺替および部分修理工事を実施してきた。

今年度は、「阿久沢家住宅保存活用計画」を策定して、本住宅の整備・管理・活用のための基本指針を定めた。また、国庫補助事業として管理棟・トイレの新築工事や駐車場の舗装工事を行った。管理棟の新築に伴い、本住宅の北東にあった旧管理棟を撤去したため、本住宅の背景にそびえる赤城山の良好な眺望が望めるようになった。

管理棟および駐車場

管理棟外観

岩神の飛石整備事業

岩神の飛石の環境整備事業は、昭和５１年度に囲柵・標識及び説明板設置工事が実施されて以来の事業である。平成 25 年度からの継続事業であり、今年度は、環境整備事業の最終段階として諸説乱立している飛石の来歴に迫る調査を実施した。岩石成分分析において岩石記載と化学組成分析、年代測定を実施し、加えて、昨年度実施したボーリング調査で採取したコアのテフラ分析を行い、多角的に飛石の来歴に迫るために実施した。これら飛石の内面的な環境整備と過年度実施した危険樹木の整備、定点観測及び測量、囲柵新設といった外面的な環境整備を集成し、「環境整備事業報告書」の作成を行った。単一岩石の天然記念物の整備事例の提示するとともに科学的データに根ざした天然記念物として諸研究及び教育活動に資することが出来るものとして広義の「環境」を整えていくことを目的として実施した。

【事業の概要】

事業主体　前橋市

事 業 名　歴史活き活き！史跡等総合活用整備 事業

事 業 費　6,365,460 円

実施期間　平成 27 年 4 月 9 日
～平成28 年3 月29 日

実施方法　国、群馬県からの補助金を受けて実施。

工事内容　①指定杭設置測量
②ボーリングコア等のテフラ分析調査
③岩石成分調査委託
※昨年度よりの継続
④国指定天然記念物岩神の飛石環境整備事業報告書作成

なお、周辺環境の整備や保存管理計画策定などの諸整備事業を実施するにあたり有効且つ円滑に行うため、本事業では有識者による委員会を設立し、指導助言をいただきながら事業を実施した。

【参考】

（環境整備委員）

野村哲委員、井上唯雄委員、能登 健委員小池洋七委員、瀬尾茂委員 浅野敏雄委員

（指導助言）

文化庁 柴田技官、県教委 田島指導主事
県自然史博物館 菅原学芸員
前前橋市文化財調査委員 片山満秋委員

（開催会議）

○第 1 回国指定天然記念物「岩神の飛石」環境整備委員会議（平成 27 年 12 月 16 日実施）

○第２回国指定天然記念物「岩神の飛石」環境整備委員会議（平成27 年2 月29 日実施）

(5) その他史跡に関わる保存修理事業

①国庫補助を受け、女堀西沼法面保護工事98m を行った。②天神山古墳の旧展示室撤去、フェンス改修工事を行った。③宝塔山古墳石積み階段補修工事を行った。④日枝神社の六角堂柱に歪みが生じたため、補修工事を行った。

天神山古墳

女堀西沼

（６）指定文化財説明板の整備

説明板・標柱の新設及び書替を行った。

・説明板新設12 箇所

1 赤城神社（小鳥が島出土鏡）2 馬場町稲荷神社（あ・うん石仏・馬場の石造馬頭観世音立像） 3 市之関住吉神社（宮城流算額・狂歌合わせの額・折句合わせの額）
4 柏倉町（赤城神社御神幸の輿懸）5 大前田諏訪神社（大前田諏訪神社の獅子舞） 6 遠見山古墳 7 長昌寺（本城氏の墓 三基） 8 無量寿寺（無量寿寺地蔵菩薩立像・無量寿寺十一面観音立像） 9 近戸神社（近戸神社神輿） 10 富士見町時沢（時沢の仁王と多宝塔） 11 珊瑚寺（珊瑚寺の板碑と多宝塔） 12 駒形神社（駒形牛頭天王の獅子頭 一対）

・説明板書替3 箇所

1 円満寺（薬師如来坐像 一体石造阿弥陀三尊坐像）
2 龍海院前橋藩主酒井氏歴代墓地3 大胡城跡

(7) 群馬県史跡整備市町村協議会

前橋市では、群馬県史跡整備市町村協 議会に加盟しており、平成２６年度より会長市として、事務局を担うこととなった。

協議会では史跡の整備や保存活用のため、県内選出の国会議員への予算陳情を実施するほか、担当職員の研鑽のための研修会などを実施した。

主な活動内容

① 平成２７年度総会及び研修会

・総会

日 時 平成２７年５月１４日（木）
午後１時３０分～

会 場 前橋プラザ元気２１
５０１・５０２ 会議室

・研修会

文化庁文化財部記念物課史跡部門

文化財調査官 浅野啓介氏

「史跡等の保存活用計画について」

・視察 大室古墳群・はにわ館

② 群馬県内文化財担当職員交流会

日 時 平成２７年１０月１日（木）
午前１０時～

会 場 国指定史跡金山城・太田市立史跡金山城跡ガイダンス施設他

研修内容

「国指定史跡金山城跡の調査・活用」

太田市教育委員会文化財課 宮田 毅氏

視 察

国指定史跡金山城・太田市立史跡金山城跡ガイダンス施設・

国指定史跡金山城

③ 群馬県知事・群馬県教育委員会教育長への陳情（県史協役員市）

日 時 平成２７年１０月２９日（月）
午後２時～

④ 全史協臨時大会・史跡等関係予算地元国会議員陳情

日 時 平成２７年１１月１２日（金）

陳情先 群馬県内選出国会議員

参 加 ８市、県、県東京事務所

また、関東地区史跡整備市町村協議会においては、監査市として７月３１日（金）の役員会・総会・研修会に出席した。

3 普及事業

(1) 前橋市・高崎市連携文化財展

結 果

前橋・高崎連携文化財展

前橋・高崎連携文化活用事業として、毎年開催してきた文化財展「東国千年の都」を本年度も開催した。

①展示テーマ

東国千年の都

『出土した動物たち～人がおそれ愛したケモノの世

界～』

今回は、昆虫や鳥、空想上の動物も含めたさまざまな「ケモノ」と人との関りを「狩る」、「まつる」、「ともに生きる」の３つのテーマで展示し、前橋・高崎それぞれの会場で展示解説会を行った。

②期日・会場

・前橋会場 平成28 年1 月7 日～12 日

前橋プラザ元気21　1 階にぎわいホール

・高崎会場 平成28 年1 月16 日～25 日

高崎シティギャラリー ２階 第６展示室

③開催結果

来場者数は5,142 人（前橋会場3,930 人）人で、前年より2,000 人以上の増となり、アンケートの結果も好評であった。

展示ギャラリーでの解説会の様子

(2)　第43 回前橋市郷土芸能大会

①　日　時　平成２７年１１月２１日（土）

②　会　場　前橋市民文化会館 小ホール

③　内　容

毎年開催している郷土芸能の公演。市内から部門別で４つの団体と近隣市町村から招待した１団体に出場いただき、計５団体で公演を行った。

近隣市町村からの招待は、団体同士の交流と研鑽を目的に始められ恒例となっているが、今回は沼田市より「薄根太々神楽」に出演いただいた。

もう一つの恒例となっている抽選会も実施した。これは余興的な催しである一方、より多くの方に来場いただき、最後の公演まで場内の活気を維持するねらいで実施しており、市内１９の企業・団体からご協賛を頂き、盛大に開催することができた。

さらに、マスコミ各社の後援協力を頂き、市関係施設にチラシの配架依頼を行うなど、広報活動も積極的に行った。（延べ500 名入場）

郷土芸能の継承にも繋がるよう、若い世代の集客も目指し、より魅力ある大会へと充実を図っていきたい。

郷土芸能の名称	保　存　会 名	所在地
雷電神社 太々神楽	雷電神社太々神楽保存会	上新田町
愛宕神社祇園囃子	愛宕神社祇園囃子保存会	住吉町 二丁目
薄根太々神楽	薄根太々神楽保存会	沼田市 硯田町
下長磯操翁式三番叟	下長磯操翁式三番叟保存会	下長磯町
月田近戸神社の獅子舞	月田近戸神社獅子舞保存会	粕川町 月田

公演の一場面

(3)　普及啓発

① 文化財探訪

この事業は、前橋市内にある文化財や施設の見学を通じて、市民の方々の生涯学習に役立て、文化財の意義・保護管理の大切さの理解を深めることを目的に、平成１５年度より開始した。平成２７年度は、第１回目は、大河ドラマ「花燃ゆ」プロジェクト合わせて楫取素彦ゆかりの地をめぐった。第２回目は３つの赤城神社を巡る旅と題して、3 つの赤城神社の歴史、関連性、赤城山信仰との関わりなどの説明を受けながら、指定文化財を見学した。

〈第一回目〉

日時 11 月7 日(土)

13 時～17 時

案内 観光ボランティア会

千木良 玄

阿佐美 良雄

参加者：１４名

コース：船津伝次平の墓→下田椿山遺愛碑→臨江閣→厩橋招魂碑→前群馬県令楫取君功徳之碑→宮崎有敬功之碑→ドラマ館→浄土心中説教所・清光寺

見学風景

〈第２回目〉

日 時 3 月13 日（日）

9 時～13:30 時

案 内 文化財ボランティア

難波 伸男

参加者 ２２名

コース：３つの赤城神社を巡る旅

大洞赤城神社→三夜沢赤城神社→二宮赤城神社

三夜沢赤城神社での見学様子

二宮赤城神社での見学の様子

②出張授業・出前講座

○出張授業「おもしろ文化財教室」

小中学校の社会科や総合的な学習の時間などにおいて、本課職員が講師として学校へ訪問し、授業を行うものである。担当教諭と事前打ち合わせを行い、授業のねらいや留意点などを確認し、児童・生徒たちにとって充実感・達成感のある授業をめざし実施した。今年度は、延べ 15 校 954 名を指導した。

《実施概要一覧》

実施日	学校名 学年	実施内容（実施場所）
4/28	桃井小6 年	古墳解説（総社古墳群）
5/22	滝窪小6 年	埴輪つくり
6/10	桃井小6 年	勾玉つくり（親子行事）
6/19	細井小6 年	埴輪づくり
9/1	岩神小6 年	縄文土器つくり
10/9	桃瀬小3 年	昔の道具・くらし（粕川歴民）
12/9	朝倉小6 年	空襲講話（原田先生）
1/26	月田小3 年	昔の道具・くらし（粕川歴民）
1/28	滝窪小3 年	昔の道具・くらし（粕川歴民）
1/29	大胡小3 年	昔の道具・くらし（粕川歴民）
2/4	粕川小3 年	昔の道具・くらし（粕川歴民）
2/10	桃瀬小6 年	空襲講話（原田先生）
2/23	大胡東小3 年	昔の道具・くらし（粕川歴民）
2/24	桃木小3 年	昔の道具・くらし（粕川歴民）
3/9	城南小3 年	郷土芸能

③ 出前講座（生涯学習課事業）

今年度の実施状況は以下の通り。

i．「明治のイギリス外交により見出された大室古墳群」

2　団体

ii．「古代の東国に咲いた華　山王廃寺」

2　団体

iii．解明！古代前橋の中心「推定上野国府跡」

2　団体

iv．「文化財のあらましと保護行政について」

実績なし

なお、その他事項として「公民館連携事業」に関連するものとして明寿大学への講師派遣依頼があった。

④ 職場体験学習

今年度は、２件の依頼があった。そのうち１件は高校からの依頼を受け入れた。実施概要は以下の通り。

○9/8～9/10

桂萱中学校　　第２学年　　４名

○10/20～10/23

群馬県立前橋商業高等学校

第１学年　　８名

④　　文化財資料の貸出

出版社等からの依頼を受け、写真資料のか貸し出しを行なった。主な貸し出しは以下の通り。

貸し出し資料	貸し出し先
松平直基画像	TBS テレビ
旧安田銀行担保倉庫写真データ	株式会社エイエイピー
春日神社太々神楽（蚕の舞写真） 松平直克公肖像写真	株式会社天夢人
前橋城絵図（貞享四年卯年八月十三日） 大胡城下絵図写真	岩宿博物館
松平直基画像	福井県勝山市教育委員会
横室歌舞伎衣裳 2 点（県指定以外のもの）	・特定非営利活動法人ぐんま郷土芸能助っ人塾あ ・群馬教育文化事業団

⑤ 文化財めぐりパンフレット

作成後１０年以上経過した文化財めぐりパンフレットに関して、観光面での利用増加を目指して、リニューアルを行う。

平成２６年度にイラストレーターの芦村早苗さんを起用して中央・南橘版の原稿を作成したことから平成２７年度に印刷を行った。また、残り９地区分の原稿作成依頼をした。

印刷については、平成２８年度以降順次行う

⑥山王廃寺跡塑像復元プロジェクト事業について

1　事業名称

山王廃寺跡塑像復元プロジェクト

2　目　　的

平成９年と 11 年に山王廃寺跡から多量の塑像が出土した。山王廃寺跡で発見された塑像は、東京藝術大学の松田誠一郎教授の研究により塔本塑像で、その製作年代は興福寺の八部衆とほぼ同じ８世紀の中頃ということが判明した。かつて川原寺や薬師寺西塔、元興寺、四天王寺などにも塔本塑像は存在していたが、現在では法隆寺五重塔初層の塔本塑像しか残っていない。

法隆寺の塔本塑像は東西南北に残されており、東面は「維摩詰像土」、西面は「分舎利仏土」、南面は「弥勒仏像土」、北面は「涅槃像土」が表現され、仏伝に記録された重要なシーンがジオラマとして表現されたものである。山王廃寺跡にもこのような仏伝の代表的なシーンがジオラマとして存在していた。

今回のプロジェクトは、山王廃寺の塑像について細かな研究を進め、塑像の復元を目的とする。その目的は市民に山王廃寺や山王廃寺塑像の素晴らしさを実感していただくことにある。なお、新設の総社資料館の展示品としても活用を図って行きたい。

3　検討会

第１回検討会1 部

期日：平成27 年3 月10 日（火）

時間：13：00～15:00

会場：城陽市歴史民俗資料館

山崎隆之（愛知県立芸術大学名誉教授）

松田誠一郎（東京藝術大学教授）

松田妙子（仏像研究家）

小川卓也・前原 豊（前橋市教委）

戸花亜利州(城陽市歴史民俗資料館)

内容：開催中の企画展「土・仏・祈～古代の信仰をみつめて～」の見学。城陽市平川廃寺塑像の検討。

第１回検討会2 部

期日：平成27 年3 月10 日（火）

時間：15：00～17:00

会場：奈良大学付属博物館

山崎隆之（愛知県立芸術大学名誉教授）

松田誠一郎（東京藝術大学教授）

松田妙子（仏像研究家）

栗田美由紀（奈良大学講師）

小川卓也・前原 豊（前橋市教委）

内容：山王廃寺跡塑像復元方針と今後の工程の検討。九州国立博物館にＣＴスキャンと３Ｄプリンタ模型製作の依頼が決定。

図1 自作の阿修羅像を前に山崎先生と松田先生

第２回検討会

期日：平成27 年4 月16 日（木）

会場：九州国立博物館・博物館科学課

今津節生（九州国立博物館・科学課長）

赤田昌倫（九博アソシエイトフェロー）

田中麻美（九博科学課環境保全室）

小島純一・小川卓也・前原 豊（前橋市教委）

図２ 九州国立博物館でのCT スキャンのようす

内容：塑像50 点のＣＴスキャン、ＣＴスキャンデータの分析。３Ｄプリンタ模型検討と依頼、ＣＴスキャンデータの受理。

第３回検討会

期日：平成27 年6 月10 日（水）

会場：九州国立博物館・科学課

今津節生（九州国立博物館・科学課長）
赤田昌倫（九博アソシエイトフェロー）
田中麻美（九博科学課環境保全室）
前原 豊（前橋市教委）
内容：№23 天部腕のＣＴスキャン再撮影。19 点の３Ｄプリンタ模型の受理。ＣＴスキャンデータの解析。

第４回検討会

期日：平成27 年7 月19 日（日）
会場：東京藝術大学附属古美術研究施設
山崎隆之（愛知県立芸術大学名誉教授）
松田誠一郎（東京藝術大学教授）
松田妙子（仏像研究家）
安藤 寛（磐田市教育委員会主査）
小川卓也・前原 豊（前橋市教委）
内容：塑像の種類、部位の再検討

第５回検討会

期日：平成27 年10 月10 日（日）
会場：九州国立博物館・科学課
今津節生（九州国立博物館・科学課長）
赤田昌倫（九博アソシエイトフェロー）
田中麻美（九博科学課環境保全室）
小川卓也（前橋市教委）

図3 九州国立博物館での再撮影

内容：№2 天部垂髻＋33 女性像侍者、34 天部像のＣＴスキャン再撮影の打合わせ

第６回検討会

期日：平成27 年11 月24 日（月）
会場：九州国立博物館・科学課
赤田昌倫（九博アソシエイトフェロー）
田中麻美（九博科学課環境保全室）
前原 豊（前橋市教委）
内容：№2 天部垂髻＋34 天部像、33 女性像侍者原物と３Ｄ模型受理エプソム塩処理と未処理の合計８点を受理。ＣＴスキャンデータの検討

第７回検討会

期日：平成27 年12 月5 日（土）
会場：東京藝術大学附属古美術研究施設
山崎隆之（愛知県立芸術大学名誉教授）
松田誠一郎（東京藝術大学教授）
松田妙子（仏像研究家）
前原 豊（前橋市教委）

図4 検討中の山崎先生と松田先生

内容：№33 女性像侍者の復元模型の検討。背子を着衣した像に変更。2＋34 天部像の検討。阿修羅像の可能性が高い。今後、33 と一対となる高崎市所蔵の住谷女性像も復元を検討する。

図5 山崎隆之先生により復元された山王塑像

5 来年度に向けて

新総社資料館の開館を平成 28 年10 月に予定しているため、現在製作中の下記の№2＋34、33 の女性像２点、№6 ほか神将像１点については開館

に合わせた復元に早めた計画で進めたい。このほかにも№8 神将像、1 菩薩像、31 比丘像、37 胡人像、51 駱駝像、49 猪像の復元についても研究を進めていく予定である。

（4）大室古墳の教室事業について

1　事業名称

史跡 前二子古墳・中二子古墳・後二子古墳ならびに小二子古墳、歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業

前橋市事業名 大室古墳の教室

2　目　　的

大室古墳群(史跡前二子古墳・中二子古墳・後二子古墳）は、大室公園とともに整備が完了し、市民の憩いの場として、また歴史学習の拠点として、様々な体験学習や活用事業に多くの市民が参加している。

ここに計画する大室古墳の教室は、土地の歴史の実証として維持されてきた大室古墳群を、広く市民が知り、親しみ、学び、誇ることを通して、これからのまちづくり、人づくりに資することを目的とする。

3　事業費

5,000,000 円（50%国庫補助対象）

平成26 年度～28 年度3 カ年事業

4　開催した普及事業

（1）小学生夏休み森の考古学教室

期間：平成 27 年7 月23 日（木）から8 月21 日（金）までの毎週木・金曜日

時間：午前9 時から午前 12 時まで

講師：文化財保護課職員

会場：大室公園管理事務所ホール

図1　小学生夏休み森の考古学教室・鏡つくり

第1 回 土偶つくり 1

平成27 年7 月23 日（木）9 名

第2 回 土偶つくり 2

平成27 年7 月24 日（金）5 名

第3 回 埴輪つくり 1

平成27 年7 月30 日（木）20 名

第4 回 埴輪つくり 2

平成27 年7 月31 日（金）9 名

第5 回 勾玉つくり 1

平成27 年8 月6 日（木）21 名

第6 回 勾玉つくり 2

平成27 年8 月7 日（金）18 名

第7 回 鏡つくり 1

平成27 年8 月20 日（木）19 名

第8 回 鏡つくり 2

平成27 年8 月21 日（金）21 名

○見本の埴輪と土偶の焼成

平成27 年 7 月 13 日（月）一心窯の簡易窯焼成

○小学生作成の埴輪と土偶の焼成

平成27 年 8 月 17 日（月）一心窯の灯油窯焼成

平成27 年 8 月 18 日（火）一心窯の簡易窯焼成

○作品引渡 平成27 年8 月19 日（水）～

（2）講座・赤城山南麓の考古学 2015

「赤城山南麓の古代を学ぶ」

期間：8 月 29 日（土）～10 月 3 日(土)の毎週土曜日

時間：午前9 時半から午前11 時半まで

会場：大室公園民家園離れ

第1 回 赤城山南麓の旧石器時代

図２ 講座・赤城山南麓の考古学2015

「石やり大型流通センター・武井遺跡」
講師：小菅将夫氏（岩宿博物館）
平成27年8月29日、24名
第2回 赤城山南麓の縄文時代
「縄文・尖底土器の謎」
講師：橋本 淳氏（群馬県教育委員会）
平成27年9月6日、24名
第3回 赤城山南麓の古墳時代
「古墳時代の豪族の館」
講師：横澤真一氏（伊勢崎市教育委員会）
平成27年9月19日、27名
第4回 現地講義
「赤城山南麓の古墳めぐりバス・ツアー」
講師：深澤 敦仁氏（群馬県教育委員会）
平成27年9月19日（土）
午前9時から午後3時半まで 21名
第5回 赤城山南麓の古墳時代
「櫃石と巨石祭祀」
講師：杉山 秀宏氏（公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団）
平成27年9月26日、27名
第6回 赤城山南麓の中世
「赤堀花しょうぶ園の女堀を掘る」
講師：川道 亨氏（伊勢崎市教育委員会）
平成27年10月3日、23名

(3) 匠の教室

図３ 匠の教室第２回・盾持人埴輪をつくる

第1回 縄文土偶をつくる
会場：大室民家園主屋・離れ
講師：八木 孝男氏（縄文土器制作家）
期間：平成 27年10月9日（金）から 10月18日（日）まで
時間：午前9時から午後4時まで
参加者数：16名 延べ人数：89名
第2回 盾持人埴輪をつくる会
場：大室民家園主屋・離れ
講師：石井政幸氏（一心窯主宰）
期間：平成 27年10月30日（金）から 11月8日（日）まで
時間：午前9時から午後4時まで参
加者数：23名 延べ人数：145名
第3回 天平の塑像をつくる
会場：大室民家園離れ
講師：桜岡 正信氏（公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団）
期間：平成 27年11月21・28日、12月5・12・19・26日（土）
時間：午前9時から午前 12時まで
参加者数：16名 延べ人数：62名
第4回 前二子古墳の双葉剣菱形杏葉をつくる
会場：大室民家園主屋・離れ
講師：杉山 秀宏氏（公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団）
開催日時：平成 28年1月30日（土）雪
時間：午前9時から午後4時まで

参加者数：15名 延べ人数：15名

第5回 盾持人埴輪窯詰め

会場：鼻毛石町一心窯

日時 平成27年12月11日（金）
午前9時～午前12時

参加者数 4名

第6回 盾持人埴輪焼成と縄文土偶野焼き

会場 鼻毛石町一心窯

日時 平成27年12月14日（月）
午前9時～午後4時

参加者数 14名

第7回 盾持人埴輪窯出し・窯詰め

会場：鼻毛石町一心窯

日時 平成27年12月20日（日）
午前9時～午後2時

参加者数 18名

第8回 盾持人埴輪第2回焼成

会場：鼻毛石町一心窯

日時 平成27年12月21日（月）
午前9時～午後4時

参加者数 3名

第8回 盾持人埴輪第2回窯出し

会場：鼻毛石町一心窯

開催日時 平成27年12月26日（土）午前9時～
午後2時

参加者数 3名

(4) 制作品完成記念考古学講演会

図4 完成記念考古学講演会・日高 慎先生

期日：平成27年2月6日（土）

時間：午後2時から午後4時まで

演題：「盾持人埴輪の世界～古墳をまもる埴輪」

講師：日高 慎氏 東京学芸大学准教授

会場：前橋市総合福祉会館多目的ホール

聴講者：215名

(5) 大室はにわ館展示

場所：西大室町 2510民家園土蔵

面積：1階 24㎡・2階24㎡計48㎡

開館：4月～12月木曜日から日曜日・祝日1月～
3月土・日曜日・祝日、年末年始は休館

時間：午前9時～午後4時

展示資料

①大室古墳群・内堀遺跡群出土品。旧石器・縄文・古墳時代の遺物・埴輪など

②前二子古墳石室復元市民プロジェクトの市民ボランティア制作品。埴輪・馬具・玉・鏡・須恵器・冠など

③韓国慶州民俗村新羅窯の新羅焼き。高杯・壺・装飾土器など

④東京福祉大学柴田研究室制作学習教材。「3D映像でみる大室古墳群」。

⑥お面をつくる・土偶をつくる・縄文文様体験しようコーナー

⑦大室古墳群模型・前二子古墳石室模型

⑧入館者数：平成 27年度8165人

4月	989	10月	828
5月	947	11月	877
6月	1,057	12月	307
7月	329	1月	425
8月	400	2月	541
9月	726	3月	739
合計		8,165	

(6) ボランティア活動

第1回 藤棚ベンチペンキ塗り替え

平成27年9月20日（日）3名

第2回 匠の教室土偶つくり会場準備

平成27年10月8日（木）

民家園離れ 参加者：4名

第3回 会場撤去・埴輪つくり会場準備

平成27年10月19日（月）3名第4回会場撤去・塑像つくり会場準備

平成27年11月9日（月）

場所：民家園主屋・離れ 参加者：6名

第5回 匠の教埴輪窯詰め

平成27年12月11日（金）

場所：鼻毛石町一心窯 参加者：4名

第6回 匠の教室埴輪・土偶焼成

平成27年12月14日（月）

場所：鼻毛石町一心窯 参加者：14名

第7回 匠の教室埴輪窯出し

平成27年12月20日（日）

場所：鼻毛石町一心窯 参加者：18名

第8回 匠の教室埴輪窯出し

平成27年12月26日（土）

場所：鼻毛石町一心窯 参加者：3名

第9回 考古学講演会準備・撤去

平成28年2月6日（土）

場所：日吉町総合福祉会館 11名

第10回 盾持人埴輪展示

図5 大室公園民家園主屋ウマヤの展示

平成28年2月8日（月）

場所：大室民家園ウマヤ、2名

(7) 盾持人埴輪の展示場開設

期日：平成27年12月22日(火)

場所：大室公園民家園主屋ウマヤ

目的：床面積 15 ㎡のウマヤに床を貼り展示場に改装し、盾持人埴輪、四天王寺蔵の人が乗る馬形埴輪を展示して公開。また、民家園の庭にも中二子古墳盾持人埴輪を設置した。

図6 大室公園民家園庭の展示

(8) 前二子古墳石室模型の製作委託

期間：平成27年11月6日から
平成28年1月15日まで

内容：前二子古墳石室模型を縮尺 1/15 で製作。
大室はにわ館1階に展示。

図7 前二子古墳の石室模型

(9) ユニット・ハウスの電気工事

期間：平成27年6月12日から7月31日まで

内容：民家園北側に設置した小ユニット・ハウス（5.4m×2.8m）に民家園ポンプ室から電源を引き込む。エアコンと電灯が使用可能となった。

(10) 古墳の藤棚基礎の補強

期日：平成 27年12月25日（金）

内容：藤棚が強風にあおられて傾いたため、基礎に切

砕を入れ、モルタルで6か所補強した。

(11) 古墳の藤棚植栽

内容：渋川森林事務所主管の「平成27年度緑豊かな地域づくり事業」による植栽が実施された。

期日：平成28年3月5日（土）

樹木：藤3本、モッコウバラ6本

図8 「緑豊かな地域づくり事業」による植栽

(12) 印刷物の刊行

カラー・普及パンフレットの作成・A4判

①「大室古墳群」20頁1000部

②「赤城山南麓の旧石器」16頁2000部

③「赤城山南麓の縄文時代」16頁2000部

④「赤城山南麓の古墳」16頁2000部

⑤「総社古墳群」16頁2000部

記録集の作成

「大室古墳の教室記録集」

A4判144頁　400部

5 来年度に向けて

平成26・27年の2か年にわたって体験学習場や展示場の整備を終えることができた。

平成27年度の小学生考古学体験教室は大室公園管理事務所ホールで開催した。全面ガラス貼りの円形建物は室内にいるのに、あたかも公園にいるようなイメージが味わえる贅沢な空間である。空調機器が3台備わっており快適な環境で体験学習を終えることができた。来年度も同施設を借用して行っていきたい。

また、県文化振興課主催の沼田市奈良古墳群での古代東国文化サミットに参加し、アイロン転写シートを使った「埴輪金ピカ・ストラップつくり」を行った。120名を超す小学生が作成を行い好評であった。今後も、古墳や遺跡を題材にした楽しくワクワクする付加価値のあるイベントグッズの開発にあたっていきたい。

来年度の考古学講座や匠の教室の開催にあたり、大室古墳群や赤城山南麓を基本にして、より深く、楽しく学べるような内容で実施していきたい。

(5)大室古墳群公開イベント

大室古墳群公開イベント2015

平成16年度に整備事業の完了した大室古墳群を歴史遺産として広く市民に周知し、活用促進を図り、もって文化財の愛護精神の高揚を図ることを目的に本イベントを毎年開催しており、今回で11回目となった。

①イベント名称

「大室古墳群公開・普及イベント2015 石を削れ 火をおこせ 謎を解け☆体験☆大室古墳群！」

②開催日時：平成27年6月14日（日）

③会場：前橋市大室公園内

④イベント内容

(1)古墳見学会

市民ボランティア解説員「大室古墳（つか）の語り部」による古墳案内。

(2)古代体験イベント

勾玉づくり、火おこし、ペーパークラフト、座繰り、桑の木細工、繭クラフト、古代衣裳

(3)和太鼓演奏

群馬県立勢多農林高等学校 郷土芸能部によるオープニングセレモニー。

(4)古墳めぐりスタンプラリー

(5)観光物産品等の販売

好天候で、体験イベント等においては、延べ3,500人以上の参加者があった。

古代体験イベントの様子

(6) 大室古墳群市民ボランティア解説員の活動（大室古墳の語り部）

市民ボランティア解説員の会「大室 古墳（つか）の語り部」は、一般市民の視点に立った文化財・史跡の普及活用を目指し発足し、１０年が経過した。

現在活動中の市民ボランティアは８名、ほとんどが地元在住で、地元にまつわるエピソードなども盛り込みながら案内・解説を行っている。

春から秋にかけての定例説明会の他、団体や個人から見学依頼を受けて大室古墳群の案内を行っている。他に大室イベントや大室古墳の教室への協力など幅広く活動している。定例説明会は、「広報まえばし」や市ホームページでの広報も行い、市民に活動をアピールしている。

また、年度末には総会を開催し、翌年度の総括と来年度へ向けての活動計画を検討した。さらに、野外研修として、市外の史跡や解説団体（施設）を見学し資質向上に努めている。

① 定例活動（古墳案内等）

（５月～１１月の主に第1 土曜日）

９時30 分から11 時頃まで受付、民家園を集合・出発場所として開催。希望者が集まり次第、人数に応じてグループに分けするなど随時案内。一周一時間程度。見学者 計 ２８名

② 学校・一般団体等の案内

随時受付け。１４団体へ実施。

見学者 計 ４７８名

③ 研修会

市観光ボランティア会の研修のほか、会員で史跡や歴史施設の見学・研修を行っている。

本年度は、群馬県埋蔵文化財センターと富士見横室古墳公園等を訪れ、史跡や案内の手法ついて学んだ。

(7) 文化財修復補助等事業

補助事業として群馬県及び前橋市指定の文化財を所有する４宗教法人及び１保存団体へ補助金を交付した。また、地域に密着して文化財の保護啓蒙などを積極的に行っている団体へ補助金による助成を行った。

助成団体は以下の通りである。五徳山大徳寺・総社神社・赤城神社・養林寺・下長磯操翁式三番叟保存会・前橋市郷土芸能連絡協議会・荒砥史談会・総社地区史跡愛存会

(8) 文化財調査事業

① 平成27 年度「旧大竹煉瓦蔵」建造物調査及び資料作成事業

〔調査概要〕

本物件は、三河町一丁目 28-23 に所在し、市街地に残る唯一の造り酒屋の煉瓦構造物であり、大正期から昭和にかけて本市の繁栄を今に伝える重要な歴史的建造物である。

本事業では、本物件を歴史上重要な建造物及び遺構としてデータの記録収集行い、更なる利活用をすることを目的として実施した。

〔物件所在地〕 前橋市三河町一丁目28-23

〔物件所有者〕 前橋市

〔調査委託先〕 （特非）景観建築研究機構

〔調査期間〕 平成27 年7 月24 日

～平成27 年9 月12 日

②岩神の堤断面測量及び平面図作成

【調査主旨】

江戸時代後期に、安井与左衛門委より構築された可能性がある「岩神の堤」の範囲確認と堤防の断面測量等を行い、近代前橋の構築に重要な役割をはたしたと思われる遺構の姿を明らかにするため木測量調査を実施した。なお、本年度は、対象となっている堤の上流部の測量調査を行った。

【所在地】 前橋市岩神町一丁目 ほか

※グリーンドーム北側

【物件所有者】 前橋市

【調査委託先】技研コンサル株式会社

【委託調査期間】平成27 年12 月8 日～

平成28 年3 月25 日

③前橋の蚕糸業に係る歴史的建造物等調査

【調査概要】

前橋市の蚕糸業にかかる歴史上重要な遺構及び文献を調査し、市域における蚕糸業の重要性を再評価するために昨年度から実施されている調査事業である。

今年度は、5 カ年計画の 2 年次として「塩原蚕種主屋及び敷地内建造物等調査業務」と蚕糸業に係る調査委員（文書部会：石井顧問・西川委員・宮崎委員・岡田委員）による「塩原家所蔵文書の調査カード作成（全 1196 件）」を実施した。なお、調査カードの作成では、専門家も招聘し作成にあたった。

【実施期間】

平成27 年4 月1 日～平成28 年3 月31 日

【委託業者等】

・建造物調査　（有）ウッドサークル

・文書調査 調査委員及び専門家による事務局直営

【構成員】

石井寛治顧問（東大名誉教授）

大野敏委員（横浜国立大学教授）

岡田昭二委員（群馬県立文書館嘱託）

西川武臣委員（横浜開港資料館副館長）

宮崎俊弥委員（前橋国際大学名誉教授）

村田敬一委員（県文化財保護審議会専門員）

【調査計画】(※本年度は五年計画の2 年次)

本調査は5ヵ年計画での実施を目標に、以下一覧表を目安に進めていきたい。

旧塩原蚕種主屋の外観

前橋の蚕糸業に係る歴史的建造物等調査年次計画

計画年次	調査		内容
年次	事前調査		委嘱式及び現地視察（ 塩原蚕種）
2・3年次	塩原蚕種に係る調査	「蚕糸業遺構調査（塩原蚕種建造物調査）」	・建造物調査 ・建造物に関係する部分の報告書作成
		「関連文献調査」	・塩原蚕種にかかる文献調査
		「聞き取り調査」	・塩原蚕種所有者及び関係者を対象に物件の歴史や活用状況、活動範囲等について詳細な聞き取りを行う。
		検討・計画	・調査成果から歴史的な価値付け等、整理、検討。 ・次年次の調査活動の計画について検証 ・計画の再構成　　等
4年次	蚕糸業に係る調査	市内に残る蚕糸業に係る遺構関係調査	・市内の蚕糸業関連遺構の全体把握 ・蚕糸業関連遺構絞込みと詳細調査　等
		市内蚕糸業にかかる文献調査	・個人及び区有、公的機関等に収蔵されている関係資料の調査、収集を実施する。 ・調査物件の過去の資料、既往の研究等から調査物件の歴史的意義や価値、変遷過程に関する調査　等
		検討・計画	・調査成果から歴史的な価値付け等、整理、検討。 ・次年次の調査活動の計画について検証 ・計画の再構成　等
5年次	報告書作成	報告書作成に向けた補足調査	・報告書作成に当たって、必要に応じ、随時補足調査を行い、調査内容の充実を図る。
		報告書作成	・4ヵ年にわたって実施した調査内容を報告書として編集する。 ・調査票、野帳などを取りまとめものを、専門部会及び委員会により精査し、報告書の内容を確認していく。

第４章　埋蔵文化財事業

１　埋蔵文化財発掘調査事業

（１）平成27年度の発掘調査をふりかえって

１）発掘調査事業

今年度は、平成27年度埋蔵文化財発掘調査一覧表に示 したとおり22遺跡、事業数にして10件の発掘調査を実施 した。調査目的・原因別内訳は保存目的の範囲・内容確 認調査が１遺跡（１件）以外は、すべて開発事業に伴う記 録保存を目的とした調査である。このうち公共開発が18 遺跡（６件）、民間開発が４遺跡（４件）である。記録保存 目的の調査では公共開発に伴う14遺跡と、民間開発に伴 う１遺跡の発掘調査を直営で実施し、他はすべて民間調 査組織への委託により調査を実施した。

総発掘調査面積は6,928㎡で、うち保存目的の調査が 668㎡、公共開発に伴う調査が3,154㎡、民間開発に伴う 調査が3,106㎡であった。また、直営で行った調査は3,197㎡、官民委託は625㎡、民民委託は3,106㎡であった。 以下に主な調査について概述する。

①上野国府等範囲・内容確認調査

５ヶ年計画の最終年度にあたる上野国府等範囲・内容 確認調査では、今年度も上野国府との関連が想定できる 遺構を検出することができた。しかしながら、上野国府の範囲や中心施設および、国府域内の構造等は未だ解明に至っておらず、来年度以降も第２期５ヶ年計画として調査を継続する予定である。

今年度の調査は９地点で10個所のトレンチを設定し、

ア）昨年度調査で検出した建物跡の範囲と性格の究明

イ）過年度検出の区画施設と考えられる溝跡の延長確認

ウ）新たな国府関連施設の検出

を目的に調査を行った。

このうちア）の調査は、昨年度、布地業による建物基 礎跡を検出した上野国府28トレンチと、布地業と総地業の建物基礎跡を検出した元総社蒼海遺跡群(99)の隣接部分の調査であったが、昨年度以上の新たな知見を得ることができず、基礎地業の上に建てられた建物の構造や性 格等を窺い知ることはできなかった。

イ）は、過年度調査の区画施設と想定できる溝跡の単側延長部分にトレンチを設定して調査を行った。その結果、規模が縮小するものの想定箇所から溝跡を検出し、さらに単側にも伸びていることが確認できた。さらに同 溝跡を北側に延長すると、牛池側右岸の台地上に位置する元総社蒼海遺跡群(17街区)検出の道路状遺構と一直線上に並ぶことが判り、このラインが上野国府域内の地割り等を反映している可能性も想定できた。

ウ）の調査では、国庁推定地C案、元総社小学校校庭、総社神社西側の屋混みの中にトレンチを設定して新たな国府関連施設の検出を試みた。C案内では国府関連施設の検出はなかったが、律令制以前の７世紀代と考えられる溝跡を検出し、国府造営以前の地割りが想定された。元総社小校庭では、昭和36年に群馬大学が調査した大型掘立柱建物跡の再調査を行い、正確な位置の把握と柱間の推定ができたほか、新たな掘立柱構築物の存在を確認することができた。また、総社神社西側の屋混みからも掘立柱建物跡を検出することができた。狭小なトレンチのため建物の規模と全容は捉えられなかったが、柱間2.4ｍの正方位の建物であることが判った。これまで正方位を採る建物跡は元総社小校庭以外では見つかっておらず、上野国府中枢部を構成する施設の可能性が窺える。

上野国府等範囲・内容確認調査では、未だ中心施設や主 要建物を捉えられていないが、それらを推定する資料が 徐々に蓄積されつつある。

②総社蒼海遺跡群(104)～(115)・(117)・(118)・(120)

元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群 の発掘調査は、今年度は15地点で調査を実施し、うち直 営が12地点2,529㎡、委託が３地点525㎡であった。

(105)・(106)は蒼海城の堀跡と関連遺構の調査で、(105)では蒼海城関連の屋敷跡１棟と井戸跡14基、ピット 多数を検出した。うち１基の井戸跡からは完形の茶臼が３組出土し、良好な資料が得られた。

また10世紀の鍛冶関連遺構を検出した(107)は国府関連の工房域と考えられるが、昨年度調査の８世紀初頭と 考えられる布地業建物跡とごく近接した位置にあるため、８世紀から10世紀にかけて国府周辺域の土地利用に係る 機能変化があったことが想定される。一方、国府中枢域 から北西に外れた(108)では10世紀代の椀等の須恵器破 片の大量集積を検出した。近隣からも同様の土器集積遺 構が検出されており、(107)と比較すると、同じ10世紀代 でも機能ごとに土地利用が分化していたと想定できる。 国府中枢域西方の足門線沿いの(110)では、９～10世紀代の竪穴住居跡10軒のほか、中世の地下式坑を検出した。 蒼海城との関連は不明であるが、中世段階の遺構は、さらに西方の染谷川に面した台地上の(109)でも、幅８ｍ以上の大規模な堀跡が見つかっている。また、同じ台地上の(115)では元総社蒼海遺跡群では数少ない５世紀代の竪穴住居が見つかっており、国府中枢域と比較して古い段階の集落が営まれた区域でもある。

③元総社蒼海遺跡群(17街区)

元総社蒼海遺跡群の北縁、牛池川に面した台地上に位 置する。ガソリンスタンド建設に伴い、建物部分と地下 タンク部分を中心とする596㎡について、平成27年６月末 から８月にかけて調査を実施し、中世の土坑墓25基と火 葬跡３基、７世紀から10世紀にかけての竪穴住居11軒、 古代の溝跡(道路状遺構)等を検出した。

古代の溝跡は単から北へ牛池川に向かってスロープ状に傾斜しており、底面には石敷きの硬化面が認められた。 単接する蒼海(30)の調査で検出された両側側溝の道路状

遺構から続いており、切通し状に掘削して牛池川に降り込むよう構築された道路状遺構と判断した。覆土下層から中層にかけて浅間Ｂ軽石の純堆積層が認められ、11世紀初頭には廃絶していたと推定できる。上野国府等範囲・内容確認調査でも述べたが、この道路状遺構は、国府関連の区画施設と想定される古代の溝跡と同一線上にあり、上野国府域の地割り等のラインに沿って構築されたものと想定できる。

④川曲地蔵前№４遺跡

認定こども園舎の建設に伴い、平成28年１月中に1,830㎡の調査を実施し、近世以降の溝跡２条と平安時代末の浅間Ｂ軽石に埋没した水田跡を検出した。

浅間Ｂ軽石下の水田は17面を検出したが、調査区内には大畦畔による区画は認められず、いずれも坪内に区画された水田面である。周辺遺跡で確認されている大畦畔や字界の検討から、半折型を基本とする坪内の土地利用が想定できる。

また水田面には平面形状の異なる２種類の足跡を検出したが、いずれも中型馬の足跡と認められた。

⑤元総社中学校遺跡

元総社中学校体育館の解体新築工事に伴い、基礎地中梁によって直接破壊されてしまう130㎡について、平成28年２月から３月にかけて調査を行った。古墳時代前期から奈良・平安時代の竪穴住居７軒を検出した。このうち、平安時代の住居からは灰釉陶器や緑釉陶器など高級品の出土が目立つ。古墳時代から平安時代まで集落が継続することから、古代上野国の中枢域周辺に豊かな内容をもって営まれた集落が想定できる。

また10世紀後半から11世紀と推定される竪穴住居から、カマドの構築材に転用された「方光」刻印瓦が出土した。北北西に約750ｍ離れた山王廃寺から持ち込まれた瓦であろう。住居の年代は、「放光寺」が既に定額寺ではなくなっていたとする『上野国交代実録帳』の年代と合致し、この頃には瓦が持ち去られるほどに山王廃寺が衰微していたことが推察される。

⑥大渡道場遺跡№２

事務所建設に伴い、平成28年２月から680㎡の調査を実施しており、年度を跨ぎ４月まで継続の予定である。３月末までに調査区単半部の調査を終了し、ＦＡに埋没した水田や６世紀から10世紀までの竪穴住居等を検出している。

２）台帳整備事業

27年度中に実施した本発掘調査および試掘調査実施箇所のデータは、９月と２月の半期毎に遺跡地図に加筆した。また、過年度の試掘調査実施箇所のうち遺跡地図未記入分について、改めてデータを整理し前橋市遺跡分布地図への書き込みを行った。なお、包蔵地の範囲変更が生じた場合は、随時、県の情報システム上に反映されるよう、データの改訂を申請している。

３）資料整備事業

普及関係 小学校高学年児童を対象とした埋蔵文化財普及パンフレット『い・せ・きワールドin 前橋 2016』を刊行し、市内小学校に配布した他、一般用として公民館等の公共施設にも配布した。

埋蔵文化財発掘調査現地説明会は、元総社小学校校庭内における上野国府範囲内容確認調査現地説明会を、平成27年８月22日(土)に一般市民を対象に、また８月27日(月)に元総社小児童を対象に実施した。また、元総社中学校遺跡の現地説明会を、平成28年２月26日(金)に元総社中学校生徒を対象にして実施した。

埋蔵文化財資料の展示については、前橋・高崎連携文化財展における展示のほか、市内公民館および小学校、けやきウォーク、サンデンフォレストにおいて出土資料の貸出しや展示替えを行った。さらに、今年度から運用を開始した鳥羽収蔵庫において、元総社蒼海遺跡群の調査成果および平成26年度中の調査遺跡の速報展示を中心に、収蔵資料展を開催した。

資料整備 昨年度、文化財保護課移転に伴い三俣庁舎に収蔵してあった埋蔵文化財調査資料を鳥羽収蔵庫へ移転したが、今年度は引き続き収蔵資料の整理を行った。しかしながら膨大な収蔵資料を整理するには、充分な作業期間を確保することができず、一部の出土遺物と写真資料の整理しかできなかった。平成28年度以降も引き続き収蔵資料の整理を行い、収蔵資料の台帳化を行う予定である。

遺物整理 過年度未整理遺跡である堀越甲真木Ｂ地点遺跡の旧石器について、昨年度に引き続き実測およびトレース作業を行った。また遺物分布図等の作成も行い、報告書の刊行に備えた。

４）開発に伴う事前協議

開発事業に係る埋蔵文化財包蔵地の照会は年々件数が増加しており、本年度は2,815件の照会があり昨年度より282件の増である。また、文化財保護法第93条第１項の届出は422件で昨年度より102件増加している。昨年度『前橋市遺跡分布地図』情報の公開に伴う周知の埋蔵文化財包蔵地の拡大により、照会・届出件数が一気に増大したが、本年度はさらに増えており市内における開発事業の多さを物語っている。

試掘・確認調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地において遺跡が破壊される恐れがある開発事業が計画されている場合や、包蔵地外であっても大規模な開発事業に際して、地下の埋蔵文化財の包蔵状況を確認するために実施した。本年度の試掘・確認調査実施件数は59件であり、このうち６件が発掘調査に移行した。その他、各種開発工事中の立会調査を76件実施した。

(2) 平成27年度　埋蔵文化財発掘調査一覧表

	遺　跡　名	ふりがな	コード	代表地番	面積(㎡)	方式	調査原因	調査期間
①	上野国府跡範囲確認調査	こうずけこくふ	27A147	元総社町2127-1	668	直営	範囲確認調査	27/5/25～27/12/22
②	元総社蒼海遺跡群(104)	もとそうじゃおうみ	27A202	元総社町1887-2	268	直営	区画整理	27/6/10～27/7/8
	元総社蒼海遺跡群(105)	もとそうじゃおうみ	27A203	元総社町2163-1	787	直営	区画整理	27/11/27～27/12/24
	元総社蒼海遺跡群(106)	もとそうじゃおうみ	27A204	元総社町1912-4	298	直営	区画整理	27/11/5～27/12/10
	元総社蒼海遺跡群(107)	もとそうじゃおうみ	27A205	元総社町2110-1	94	直営	区画整理	27/7/6～27/9/18
	元総社蒼海遺跡群(108)	もとそうじゃおうみ	27A206	元総社町1376	151	直営	区画整理	27/6/30～27/8/3
	元総社蒼海遺跡群(109)	もとそうじゃおうみ	27A208	元総社町1409-4	169	直営	区画整理	27/9/24～27/11/20
	元総社蒼海遺跡群(110)	もとそうじゃおうみ	27A209	元総社町2183	136	直営	区画整理	27/10/22～27/11/19
	元総社蒼海遺跡群(111)	もとそうじゃおうみ	27A212	元総社町1392-11	20	直営	区画整理	28/1/27～28/1/27
	元総社蒼海遺跡群(112)	もとそうじゃおうみ	27A213	元総社町1803	163	直営	区画整理	27/8/19～27/9/18
	元総社蒼海遺跡群(113)	もとそうじゃおうみ	27A215	元総社町2107-1	26	直営	区画整理	27/9/29～27/10/6
	元総社蒼海遺跡群(114)	もとそうじゃおうみ	27A216	元総社町1438-4	64	直営	区画整理	27/10/7～27/10/20
	元総社蒼海遺跡群(115)	もとそうじゃおうみ	27A217	元総社町1438-3	353	直営	区画整理	27/11/24～27/12/8
③	元総社蒼海遺跡群(117)	もとそうじゃおうみ	27A228	元総社町1777	147	委託	区画整理	28/1/18～
	元総社蒼海遺跡群(118)	もとそうじゃおうみ	27A221	元総社町1789-3	186	委託	区画整理	28/1/18～
④	元総社蒼海遺跡群(120)	もとそうじゃおうみ	27A223	元総社町1376	85	委託	区画整理	28/1/31～28/2/5
⑤	元総社蒼海遺跡群(17街区)	もとそうじゃおうみ	27A201	元総社町1804-1	596	委託	ガソリンスタンド建設	27/6/29～27/8/21
⑥	元総社蒼海遺跡群(75街区)	もとそうじゃおうみ	27A211	元総社町1828-4	398	委託	集合住宅建設	27/10/15～27/10/30
⑦	大渡道場遺跡№02	おおわたりどうじょう	27A218	大渡町2-3-3	680	委託	事務所建設	28/2/16～
⑧	元総社中学校遺跡	もとそうじゃちゅうがっこう	27A207	総社町総社3148	130	委託	体育館改築	28/2/8～28/2/29
⑨	総社町屋敷単遺跡№3	そうじゃまちやしきみなみ	27A214	総社町総社1583-1	38	直営	総社資料館建設	27/7/13～27/7/23
⑩	川曲地蔵前遺跡№4	かわまがりじぞうまえ	27A219	川曲町529-1	1,830	委託	認定こども園建設	28/1/5～28/1/29

(3) 平成27年度　埋蔵文化財報告書一覧表

番号	報　告　書名	遺　跡　名	発　行　者	発行年月日	備　考
1	推定上野国府	上野国府	前橋市教育委員会	H28.3.18	
2	元総社蒼海遺跡群(65)	同左	前橋市教育委員会	H28.3.23	
3	元総社蒼海遺跡群(81)～(84)	同左	前橋市教育委員会	H28.3.25	
4	元総社蒼海遺跡群(99)	同左	前橋市教育委員会	H28.3.25	
5	元総社蒼海遺跡群(100)・(101)	同左	前橋市教育委員会	H28.3.25	
6	元総社蒼海遺跡群(103)	同左	前橋市教育委員会	H28.3.31	
7	元総社蒼海遺跡群(104)～(115)	同左	前橋市教育委員会	H28.3.31	
8	元総社蒼海遺跡群(17街区)	同左	前橋市教育委員会	H28.1.29	
9	元総社蒼海遺跡群(75街区)	同左	前橋市教育委員会	H28.3.31	
10	総社町向畑遺跡№1	同左	前橋市教育委員会	H27.7.31	
11	朝倉・後閑水田遺跡	同左	前橋市教育委員会	H27.9.30	
12	川曲地蔵前遺跡№3	同左	前橋市教育委員会	H27.5.20	

（4） 平成27年度　立会調査一覧表

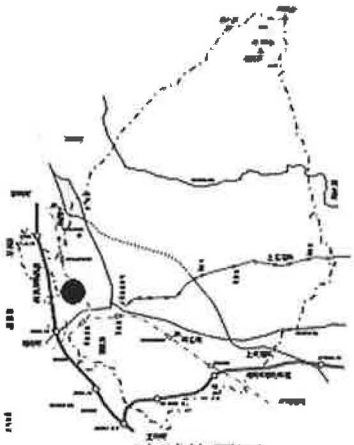
	所在地	開発面積 ㎡	開発原因	調査年月日	調査結果
1	下長磯町	1,526	農機具格納庫建設	H27.4.3	埋蔵文化財検出なし
2	鶴光路町	15	広告塔建設	H27.4.8	埋蔵文化財検出なし
3	総社町総社	1,800	工場建設	H27.4.8	埋蔵文化財検出なし
4	茂木町	239	個人住宅建設（基礎工事）	H27.4.9	埋蔵文化財検出なし
5	小坂子町	334	個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.4.15	埋蔵文化財検出なし
6	公田町	454	個人住宅建設（擁壁）	H27.5.7	埋蔵文化財検出なし
7	茂木町	767	宅地造成（擁壁）	H27.5.7	埋蔵文化財検出なし
8	堀越町	600	個人住宅建設（基礎工事）	H27.5.7	埋蔵文化財検出なし
9	江木町	500	個人住宅建設（擁壁）	H27.5.7	埋蔵文化財検出なし
10	江木町	2,580	店舗建設（浸透貯留槽）	H27.5.11	埋蔵文化財検出なし
11	横沢町	212	個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.5.13	埋蔵文化財検出なし
12	二之宮町	300	個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.5.19	土師器片
13	鶴光路町	332	個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.5.19	埋蔵文化財検出なし
14	総社町植野	204	個人住宅建設（基礎工事）	H27.5.19	埋蔵文化財検出なし
15	大前田町	296	個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.5.22	埋蔵文化財検出なし
16	嶺町	500	個人住宅建設（基礎工事）	H27.5.22	縄文土器
17	江木町	304	個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.5.25	埋蔵文化財検出なし
18	柏倉町		配水管敷設替工事	H27.5.11～H27.5.25	埋蔵文化財検出なし
19	総社町植野	211	個人住宅建設（基礎工事）	H27.5.25	埋蔵文化財検出なし
20	江田町	917	宅地造成（道路敷設）	H27.6.11	土師器片
21	上大屋町	914	個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.6.17	埋蔵文化財検出なし
22	茂木町	239	個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.6.22	埋蔵文化財検出なし
23	山王町一丁目	9	携帯電話基地局建設	H27.6.24	埋蔵文化財検出なし
24	横手町		集合住宅建設（合併浄化槽）	H27.6.26	埋蔵文化財検出なし
25	総社町総社	1,741	貸事務所建設（基礎・擁壁）	H27.6.29	埋蔵文化財検出なし
26	粕川町深津		個人住宅建設（基礎工事）	H27.6.30	埋蔵文化財検出なし
27	宮地町	342	個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.7.7	埋蔵文化財検出なし
28	粕川町深津	589	個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.7.21	埋蔵文化財検出なし
29	西大室町	2,942	資材置場建設（擁壁）	H27.8.5～H27.8.6	埋蔵文化財検出なし
30	富士見町原之郷	304	個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.8.11	埋蔵文化財検出なし
31	富士見町時沢	397	個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.8.27	埋蔵文化財検出なし
32	嶺町	495	個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.9.11	埋蔵文化財検出なし
33	粕川町深津		個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.9.14	埋蔵文化財検出なし
34	江木町	500	個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.9.17	埋蔵文化財検出なし
35	荒口町	411	個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.9.18	地下式土坑
36	粕川町女渕	214	個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.9.24	埋蔵文化財検出なし
37	元総社町		宅地造成（畑土採取）	H27.9.24	埋蔵文化財検出なし
38	鳥取町	1,100	道路建設（道路拡幅・水路）	H27.9.28	埋蔵文化財検出なし
39	元総社町一丁目	12	携帯電話基地局建設	H27.9.30	埋蔵文化財検出なし
40	上佐鳥町	306	個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.10.8	埋蔵文化財検出なし
41	東片貝町	1,100	道路建設（路盤改良）	H27.10.15	埋蔵文化財検出なし
42	青梨子町		個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.10.19	埋蔵文化財検出なし
43	堀越町		個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.10.21	埋蔵文化財検出なし
44	亀里町		個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.10.28	埋蔵文化財検出なし
45	上新田町	1,669	宅地造成（道路敷設）	H27.10.28	埋蔵文化財検出なし
46	富士見町時沢	378	個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.10.28	埋蔵文化財検出なし
47	鶴光路町		個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.11.4	埋蔵文化財検出なし
48	上長磯町		集合住宅建設（合併浄化槽）	H27.11.9	埋蔵文化財検出なし
49	力丸町	529	個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.11.10	埋蔵文化財検出なし
50	公田町	454	個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.11.10	埋蔵文化財検出なし
51	樋越町		個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.11.11	埋蔵文化財検出なし
52	元総社町		水道管敷設	H27.11.12～ H27.11.13	埋蔵文化財検出なし
53	元総社町	232	個人住宅建設（基礎工事）	H27.11.18	埋蔵文化財検出なし
54	文京町三丁目		宅地造成（ブロック塀設置）	H27.11.20	埋蔵文化財検出なし
55	文京町三丁目		携帯電話基地局建設	H27.12.16	埋蔵文化財検出なし
56	富士見町米野	130	送電線鉄塔建替工事	H27.12.17	縄文土器片多数、須恵器片。
57	大手町一丁目	325	専修学校校舎建設	H27.12.21	埋蔵文化財検出なし
58	文京町三丁目	10	個人住宅建設（表層改良）	H27.12.22	埋蔵文化財検出なし
59	上長磯町		個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.12.24	埋蔵文化財検出なし
60	下長磯町		個人住宅建設（合併浄化槽）	H27.12.28	埋蔵文化財検出なし
61	富士見町米野	107	送電線鉄塔建替工事	H28.1.5	縄文土器片多数。
62	江木町	350	個人住宅建設（基礎工事）	H28.1.12	埋蔵文化財検出なし
63	上佐鳥町	346	個人住宅建設（合併浄化槽）	H28.2.2	埋蔵文化財検出なし
64	総社町三丁目	1,332	埋設物有無確認	H28.2.16	土師器片
65	青梨子町	353	個人住宅建設（合併浄化槽）	H28.2.23	埋蔵文化財検出なし
66	力丸町	251	個人住宅建設（合併浄化槽）	H28.2.23	埋蔵文化財検出なし
67	女屋町	634	個人住宅建設（合併浄化槽）	H28.3.1	埋蔵文化財検出なし
68	堀越町	248	個人住宅建設（合併浄化槽）	H28.3.2	埋蔵文化財検出なし
69	総社町三丁目	1,332	宅地造成（下水管埋設）	H28.3.3	土師器片
70	上泉町	280	個人住宅建設（切土造成）	H28.3.3	埋蔵文化財検出なし
71	富士見町時沢	331	個人住宅建設（合併浄化槽）	H28.3.8	埋蔵文化財検出なし
72	富士見町時沢	385	個人住宅建設（表層改良）	H28.3.11	埋蔵文化財検出なし
73	田口町	494	個人住宅建設（合併浄化槽）	H28.3.17	埋蔵文化財検出なし
74	力丸町	229	個人住宅建設（合併浄化槽）	H28.3.18	埋蔵文化財検出なし
75	勝沢町	521	個人住宅建設（合併浄化槽）	H28.3.28	埋蔵文化財検出なし
76	西善町	287	個人住宅建設（合併浄化槽）	H28.3.28	埋蔵文化財検出なし

（５）平成２７年度　試掘・確認調査一覧表

	所在地	発面	開発原因	調査年月日	調査結
1	総社町植野	622	宅地造成	H27.4.17	遺構の検出なし
2	横沢町	1,816	宅地造成	H27.4.22	竪穴住居跡２軒。ピット片
3	小相木町・	田９町856	公園整備	H27.4.23	遺構の検出なし。土師器片。羽釜片
4	総社町総社	1,741	事務所建設	H27.4.27	浅間Ｂ軽石降下以降の溝カマドの竪被面。土師器
5	総社町総社・	元 総2社370	ガソリンスタンド建設	H27.4.30	住居遺構６軒。道路状遺期不詳の溝跡１条。土師
6	荒子町・二	宮28 町924	公園整備	H27.5.11～ H27.5.19	溝の立ち上がり、浅間Ｂ積（平安時代水田跡）。弁片
7	馬場町	4,054	浄化槽設置工事	H27.5.20	遺構の検出なし。縄文土
8	元総社町	127	Ｌ型擁壁設置工	H27.5.20～ H27.6.5	古代の竪穴住居跡５軒お跡。土師器片
9	元総社町	1,308	マンション建設	H27.5.21	古代の竪穴住居跡２軒お層。土師器片
10	江田町	917	宅地造成	H27.5.22	遺構の検出なし。石田川器片
11	六供町	5,551	区画整理	H27.6.4	遺構の検出なし。土師器
12	元総社町	1,308	マンション建設	H27.6.8	古代の竪穴住居跡８軒お基。土師器片
13	富士見町田島	2,032	宅地造成	H27.6.16	遺構の検出なし
14	小神明町	1,597	個人住宅および店舗建設	H27.6.17	遺構の検出なし。土師器
15	西大室町	2,942	資材置場造成	H27.6.22	古墳の周堀。円筒埴輪片
16	下新田町	3,867	宅地造成	H27.7.2	遺構の検出なし
17	下新田町	1,180	宅地造成	H27.7.22	遺構の検出なし
18	文京町三丁目	449	集合住宅建設	H27.7.23	古墳の周堀。埴輪片
19	元総社町	521	区画整理	H27.7.29	古代の竪穴住居跡。土師片・瓦片等
20	堀越町	1,669	店舗建設	H27.7.30	遺構の検出なし
21	表町二丁目	2,068	自動車車庫	H27.8.6	遺構の検出なし。近代以（瓶・砥石レンガ）
22	二之宮町	2,065	診療所建設	H27.8.27	遺構の検出なし
23	元総社町	508	個人住宅建設	H27.9.11	中世以降（時期不詳）の跡関係）
24	力丸町	1,083	宅地造成	H27.9.14	力丸城跡のものと想定さ片
25	苗ヶ島町	39,667	発電施設建設	H27.9.16・18	遺構の検出なし
26	亀里町・横手町	5,848	工場建設	H27.10.5	遺構の検出なし
27	総社町総社	1,262	宅地造成	H27.10.7	遺構の検出なし。埴輪片
28	中内町	1,000	駐車場建設	H27.10.8	平安時代末の水田跡。古遺物包含層。
29	房丸町	700	道路改築	H27.10.9	時期不詳の溝跡。土師器
30	二之宮町	4,191	宅地造成	H27.10.22	平安時代住居跡。中世溝遺物集中出土地。縄文土須恵器片
31	富士見町時沢	1,340	事務所建築	H27.10.27	平安時代住居跡。土師器釉陶器片
32	堀越町	500	個人住宅建設	H27.10.29	遺構の検出なし
33	大渡町二丁目	3,071	事務所建設	H27.10.31	古墳～平安時代住居跡。器片
34	川曲町	4,379	幼稚園建設	H27.11.5	平安時代末の水田跡。瓦
35	後閑町	873	集合住宅建設	H27.11.9	遺構の検出なし
36	元総社町	2,084	集合住宅建設	H27.11.11	古代および縄文時代の竪坑。縄文土器・土師器・
37	元総社町	1,188	老人ホーム建設	H27.11.13	時期不明の溝跡
38	元総社町	1,129	校舎建設	H27.11.16	遺構の検出なし
39	山王町一丁目	1,396	集合住宅建設	H27.11.24	時期不明の落ち込み。須片
40	川曲町	354	ガソリンスタンド建設	H27.11.25	平安時代末の水田跡
41	朝倉町	5,400	道路建設	H27.11.27	平安時代末の溝跡・落ち
42	総社町高井	595	集合住宅建設	H27.11.30	遺構の検出なし。須恵器
43	川曲町	19,964	店舗建設	H27.12.1～ H27.12.4	平安時代末の水田跡。中坑
44	後家町	946	宅地造成	H27.12.9	遺構の検出なし
45	箱田町	969	集合住宅建設	H27.12.9	遺構の検出なし
46	総社町総社	100	宅地造成	H27.12.15	古代の竪穴住居跡、溝跡
47	粕川町前皆戸	600	道路建設	H27.12.16	遺構の検出なし。土師器
48	西片貝町三丁目	747	集合住宅建設	H27.12.17	遺構の検出なし
49	元総社町	976	道路建設	H27.12.21～ H27.12.22, H27.12.24	削り出しの土羅、堀
50	元総社町	1,170	集合住宅建設	H27.12.22	古代の竪穴住居跡、溝跡師器片
51	総社町総社	1,867	中学校体育館建設	H27.12.24～ H27.12.25	古墳時代の竪穴住居跡、跡。土師器片
52	総社町三丁目	1,332	宅地造成	H28.1.14	古代の竪穴住居跡、土坑師器片
53	富士見町田島	1,328	宅地造成	H28.1.28	古代の竪穴住居跡。須恵
54	元総社町	2,363	店舗建設	H28.2.1	中世の土坑墓、時期不明器・土師器・瓦片
55	元総社町	3,287	店舗建設	H28.2.2	古代の竪穴住居跡。縄文片
56	宮地町	350	病院建設	H28.2.25～ H28.2.26	遺構の検出なし
57	五代町地内	93,000	工業団地拡張	H28.3.2～ H28.3.4, H28.3.7, H28.3.8, H28.3.10, H28.3.11, H28.3.15, H28.3.16	平安時代末の段切り遺構
58	元総社町三丁目	2,299	集合住宅建設	H28.3.24	遺構の検出なし
59	元総社町	390	区画整理	H28.3.24	古代の竪穴住居跡

（6）平成２７年度埋蔵文化財発掘調査の内容

①　上野国府等範囲内容確認調査（27A147）



遺跡位置図

事業名　上野国府等範囲内容確認調査
所在地　前橋市元総社町 2127 番地 1 ほか
調査期間　平成 27 年5月25日から平成 27 年12 月22 日ま
担当者　阿久澤智和**調査面積**　668 ㎡

調査の経緯　上野国府は前橋市元総社町付近に設置されたと考えられているが、詳細が不明なため、平成 23 年度から５ヵ年計画で上野国府の概況を把握することを目的とした「範囲内容確認調査」を実施している。本年度はその５年次に当たる。

調査の成果　平成 27 年度は、国庁推定地Ｃ案における範囲確認調査を、26 年度に上野国府 28 トレンチおよび元総社蒼海遺跡群(99)で調査した掘込地業をもつ建物2 棟の範囲内容確認調査をあわせて実施した。そのほかに、大溝（区画溝）と、元総社小学校とその周辺における範囲内容確認調査を実施した。

（１）国庁推定地Ｃ案付近の範囲内容確認調査

上野国府 28 トレンチで検出された建物跡については未調査の単辺で調査を実施したが、特別新しい見解が得られるような調査結果はなかった。蒼海遺跡群(99)で検出された建物跡については、調査地から単東約 5m 付近で試掘したところ、版築は検出されなかったことから、少なくとも試掘した地点は建物跡の範囲外と考えられる。

国庁推定地Ｃ案周辺における調査では、6 世紀代と 10 世紀代を中心とした住居跡のほか、古代の溝や、小規模な柱穴をもつ掘立柱建物が検出されたが、掘込地業をもつ建物や、同規模も掘立柱建物等も確認できなかった。

（２）大溝（区画溝）の範囲確認調査

１年次調査で検出された西へ 10° 程傾く単北方向の大溝については、範囲確認のためにその延長上で調査を実施した結果、その軸上で溝跡が検出された。ただし、溝の規模や断面形状が典型的な区画溝とは異なっていた。

（３）元総社小学校とその周辺の調査

元総社小学校校庭の調査も３年目となるが、27 年度調査は、校舎正面付近に位置していると考えられる「元総社小学校校庭遺跡」の１号掘立柱建物跡の再検出を主な目的として実施した。

調査の結果、その存在が想定された付近で１号掘立柱建物跡が検出され、その位置を確定することができた。また、１号掘立柱建物跡の東側で新たに柱穴が検出された。この柱穴は１号掘立柱建物の東の棟持柱の柱穴とされる柱穴に規模等が近似していることから、これらの柱穴は、１号掘立柱建物跡に取り付く塀もしくは別の掘立柱建物の柱穴の可能性が考えられる。

また、校庭の単門付近において 26 年度調査で検出された古代の溝の延長の確認調査を実施したが、検出されなかった。

元総社小学校校庭での調査（41トレンチ）

元総社小学校の西側における調査では、２ヶ所で調査を行ったところ、１ヶ所（44 トレンチ）で掘立柱建物が検出された。調査面積が狭いため、建物の規模等詳細は不明である。

調査のまとめ

国庁推定地Ｃ案付近の調査では、２棟の版築をもつ建物跡以外には、小型の掘立柱建物が１棟検出されたのみで、その他に大型の建物跡は検出されなかった。大溝（区画溝）については、同軸上でさらに単へ続くことが判明したが、溝の規模や断面形状について、蒼海城本丸付近から北と単で違いが生じることから、大溝の時期的な変遷や、各地点で検出されている大溝の一連性について再考する必要があろう。

元総社小学校とその周辺の調査では、元総社小学校校庭遺跡の１号建物跡を再度検出することができた。また、校庭には未発見の掘立柱建物がまだ存在することが考えられるほか、小学校の周辺において掘立柱建物が１棟新たに検出されたことから、この付近にまだ建物跡が存在すると考えられることから、今後も引き続き調査・検討が必要である。

②元総社蒼海遺跡群(104)～(115)

(104)(27A202)、(105)(27A203)、(106)(27A204)、(107)(27A205)、(108)(27A206)、(109)(27A208)、(110)(27A209)、(111)(27A212)、(112)(27A213)、(113)(27A215)、(114)(27A216)、(115)(27A217)

元総社蒼海遺跡群(106)全景

遺跡位置図

事業名 元総社蒼海土地区画整理事業

所 在 地 前橋市元総社町 1887-2 他

調査期間 平成27年6月10日から平成28年1月27日まで

担当者 福田 貫之・並木 史一・渡辺 亮介

調査面積 2,529 ㎡

蒼海(104) 268 ㎡ 蒼海(105) 787 ㎡
蒼海(106) 298 ㎡ 蒼海(107) 94 ㎡
蒼海(108) 151 ㎡ 蒼海(109) 169 ㎡
蒼海(110) 136 ㎡ 蒼海(111) 20 ㎡
蒼海(112) 163 ㎡ 蒼海(113) 26 ㎡
蒼海(114) 64 ㎡ 蒼海(115) 353 ㎡

調査経緯

平成27年5月19日付けで、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市より前橋市教育委員会に提出された。協議の結果、前橋市教育委員会直営での発掘調査を実施することとなった。これを受け、6月10日から現地での発掘調査を開始した。

調査成果

(104)：古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡が3軒検出されたほか、周溝墓と思われる矩形に走向する溝跡、蒼海城堀跡等が検出された。単北方向に走向する蒼海城関連堀跡は凸状に突出している箇所が確認され、入口に係る痕跡の可能性が考えられる。

(105)：蒼海城の堀を含む中世の溝跡3条と中世のピットが多数検出された。蒼海城の堀跡は、蒼海城本丸のすぐ西側を通り単北方向に走行するものと、東西方向に走行するものとが交差する。その付近では、堀の肩が張り出しており、埋め戻して使用した土橋の可能性もある。また、中世の井戸も14基と比較的多く検出され、5号井戸からは、ほぼ完形の茶臼3個体などが出土した。

蒼海（105）5号井戸跡茶臼出土状況

4基が検出された。蒼海城の堀跡は、本丸の西側を、ともに単北方向に並走している。東側の堀跡からは、天目茶碗の破片が出土した。

(107)：古墳時代および平安時代の竪穴住居跡が5軒、蒼海城の堀跡を含む中世の溝4条が検出された。うち10世紀代と考えられる4号住居内には、7基の炉跡が確認された。特に中央部に位置する1号炉は、4つの燃焼部が認められ、その周囲を長方形に囲う土手状の施設も確認されている。付近のピットからは鍛造剥片や湯玉が検出された。

蒼海（107）1号炉全景

(108)：単北方向に走向する浅い溝跡から酸化焔焼成の椀が多量に出土した。重なって出土している箇所では上下の土器との間には明瞭な間層が見受けらないことから、一括投棄されたものと思われる。この他に中世と考えられる竪穴状遺構からは白磁片が出土した。

蒼海（108）2号溝遺物出土状況

(109)：平安時代の竪穴住居跡4軒、中世の堀跡を含む溝5条が検出された。

(110)：古墳時代から奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡が10軒検出されたほか、中世の堀跡1条と地下式坑1基が検出された。

蒼海（110）地下式坑

(111)：中世の溝跡1条を検出。狭い調査地の東側大半は攪乱となっていた。

(112)：古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡が12軒検出された。このうち平安時代の住居跡は同時期の住居跡と比較すると、明瞭な掘り込みと精緻なカマドを有する点が特徴的であり、さらに白磁片や緑釉陶器片が出土するなど、同時期の他遺構とは一線を画する住居跡といえる。この住居跡を中心に、ほぼ同時期の住居による重複が為されている点も注視したい。この他に、東西方向に走向する浅間B軽石直下の道跡が検出されている。

(113)：平成27年度調査の上野国府跡調査の33トレンチで確認された布地業を再度調査した。再調査の結果、布地業は西へ13度前後傾くことが分かった。

(114)：古墳時代と平安時代の住居跡2軒が調査された。平安時代の住居跡からは壺E類や緑釉陶器片が出土した。

(115)：古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡が5軒検出された。このうち古墳時代の住居跡は埋没過程でHr-FA(6世紀初頭、榛名山噴出の火山灰)が堆積している状況が確認された。

③ 元総社蒼海遺跡群(117) (27A220)
元総社蒼海遺跡群(118) (27A221)

元総社蒼海遺跡群(118)全景

遺跡位置図

事 業 名 区画整理事業
所 在 地
蒼海(117)：前橋市元総社町 1777 他
蒼海(118)：前橋市元総社町 1789-3 他
調査期間 平成 28 年 1 月 8 日から

担 当 者 中村岳彦（技研コンサル株式会社）
調査面積 333 ㎡
蒼海(117)：147 ㎡蒼海(118)：186 ㎡
調査の経緯 区画整理課と元総社蒼海土地区画整理事業において埋蔵文化財 の取扱いについて協議をおこなった。 これを受け平成 27 年12 月10 日付けで、当該工事に伴う埋蔵文化財発掘調査・ 整理業務依頼が前橋市（区画整理課） より提出された。市教育委員会では、 直営による発掘調査が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前 橋市と協議した。民間調査組織への業 務委託については、文化財保護課の監 理、指導のもと実施することとなった。平成28 年1 月7 日付けで前橋市と技研コンサル株式会社との間で発掘調査・ 整理業務委託契約を締結し、発掘調査を開始した。
調査の成果 両遺跡からは、古代から中世にかけての住居跡、溝跡、土坑、土坑墓等が検出された。

元総社蒼海(117)では、8 世紀中頃に開削された大規模な溝跡が見つかった。単西から北東方向へ延びる溝で、上幅2m、下幅0.5m、深さ1.8mの規模で、その断面は漏斗状を呈している。

元総社蒼海（118）では住居跡のカマドから構築材として転用された国分僧寺創建段階の鬼瓦破片が出土した。

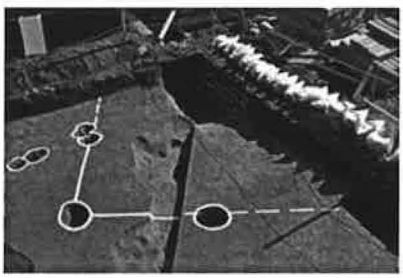
元総社蒼海遺跡群（117）大溝全景

④ 元総社蒼海遺跡群(120) (27A223)

元総社蒼海遺跡群(120)全景

遺跡位置図

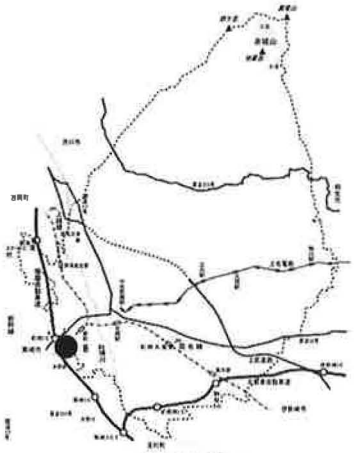
事 業 名 区画整理事業
所 在 地 前橋市元総社町 1411-1、1411-2 の一部
調査期間 平成 28 年 1 月 31 日から平成 28 年 2 月 5 日まで担
当 者 中村岳彦（技研コンサル株式会社）
調査面積 85 ㎡
調査の経緯 区画整理課と元総社蒼海土地区画整理事業において埋蔵文化財 の取扱いについて協議をおこなった。 これを受け平成 28 年1 月14 日付けで、当該工事に伴う埋蔵文化財発掘調査・ 整理業務依頼が前橋市（区画整理課） より提出された。市教育委員会では、 直営による発掘調査が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前 橋市と協議した。民間調査組織への業 務委託については、文化財保護課の監 理、指導のもと実施することとなった。平成 28 年1 月27 日付けで前橋市と技研コンサル株式会社との間で発掘調 査・整理業務委託契約を締結し、発掘 調査を開始した。
調査の成果 本遺跡に近接する元総社蒼海遺跡群(13)での調査成果から、遺構確認面までの深度を想定したが、旧地形は削平を受けており、表土下約20cm で総社砂層に達した。こうした状況で検出された遺構は、掘立柱建物跡1 棟、溝跡 2 条、土坑 1 基、ピット 25 基である。掘立柱建物跡、土坑、ピットについては、覆土に As-B を含まないことから、古代以前に帰属する遺構と考えられる。また、溝跡 2 条については、覆土に As-B を含むことから、中世以降の遺構と考えられる。



検出された掘立柱建物跡

⑤ 元総社蒼海遺跡群(17 街区) (27A201)

元総社蒼海遺跡群(17 街区)
古代道状遺構全景



遺跡位置図

事 業 名 店舗建設
所 在 地 蒼海(17 街区)：前橋市総社町総社3097 他
調査期間 平成 27 年6 月29 日から
平成 27 年8 月21 日まで
担 当 者 楢崎修一郎（技研コンサル株式会社）
調査面積 595.72 ㎡
調査の経緯 平成27 年4 月23 日、開発人より試掘調査依頼書が提出され、同月30 日に試掘調査を実施した。その結果、 竪穴住居跡6軒、道路状遺構1条、時期 不明の溝跡1条を確認した。埋蔵文化財 の取扱いについて協議を行い、「現状保 存」が不可能であるところから、発掘調 査による「記録保存」を実施することで 開発人の合意を得た。市教育委員会では、直営による発掘調査がこんな言いであ るため、「群馬県内の記録保存を目的と する埋蔵文化財の発掘調査における民 間調査組織導入事務取扱要綱」により市 教育委員会の監理・指導のもと、技研コ ンサル株式会社が発掘調査を実施する こととなった。
調査の成果 本遺跡からは、古墳時代から平安時代の竪穴住居跡１１軒、道状遺構１条、土坑等が検出された。また、中近世の土坑墓２５基・火葬墓３基も検出された。

特に、古代の道状遺構は、類例が少なく貴重な発見となった。

また、中近世の墓坑群は、本遺跡を中心として大きな墓域を形成したことを確認できた。

中近世墓坑群

また、本発掘区の北側に擁壁を設置することとなり、（17 街区）Ｎｏ２として引き続き調査を実施した。

⑥元総社蒼海遺跡群(75 街区)
(27A211)

元総社蒼海遺跡群(75 街区)全景

遺跡位置図

事 業 名 集合住宅建設
所 在 地 蒼海(75 街区)：前橋市元総社町1619-1（丙）他
調査期間 平成 27 年10 月15 日から
平成 27 年10 月30 日まで担
当 者 藤坂和延（前橋市教育委員会）・前田和昭（技研コンサル株式会社）
調査面積 150 ㎡
調査の経緯 開発人と埋蔵文化財の取扱いについて協議を行い、「現状保存」が不可能であるところから、発掘調査に よる「記録保存」を実施することとなっ た。また、集合住宅内に開発人個人専用 の住宅スペースがあるところから、面積 按分による開発人負担分と補助対象分 に経費を振り分けて、平成27 年10 月8 日付けで開発人負担分については前橋 市と開発人との間で発掘調査・整理業務 委託契約を締結し、発掘調査を開始した。なお、技研コンサル株式会社に代理人・作業員の確保および測量業務において 発掘調査協力をお願いした。
調査の成果 本遺跡からは、縄文時代の土坑１基、古代の竪穴住居跡９軒、土坑が検出された。

縄文時代の土坑は、出土遺物が皆無であったが、覆土の状況・形態から同期の遺構と判断した。古代の住居跡は 8～9 世紀代で、特筆される出土遺物として、６号住居跡から検出された須恵群があげられる。

H-6 号住居跡遺物出土状況

⑦大渡道場遺跡No. 2 （27A218）

大渡道場遺跡No. 2 全景

遺跡位置図

事 業 名 事務所建設
所 在 地 前橋市大渡町二丁目３番３他
調査期間 平成 28 年2 月16 日から

担 当 者 高橋清文（有限会社毛野考古学研究所）
調査面積 680 ㎡
調査の経緯 平成27 年10 月2 日、開発人より試掘調査依頼書が提出され、同月31日に試掘調査を実施した。その結果、古墳時代から平安時代の竪穴住居跡等を確認した。埋蔵文化財の取扱いについて協議を行い、「現状保存」が不可能であるところから、発掘調査による「記録保存」を実施することで開発人の合意を得た。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」により市教育委員会の監理・指導のもと、有限会社毛野考古学研究所が発掘調査を実施することとなった。

調査の成果 本遺跡からは、縄文時代の土器・石器の検出、古墳時代後期から平安時代代の竪穴住居跡 32 軒、掘立柱建物跡 1 棟、井戸跡 2 基、土坑 14 基、溝跡 20 条、水田跡、畑跡等が検出された。また、近世の掘立柱建物跡1 棟、土坑9基の検出もあった。

古墳時代後期（６世紀初頭）の榛名山噴火による火山灰（Hr-FA）や泥流が水田経営に及ぼした影響は大きく、畑地としての営農形態に切り変わった状況が確認でき、再び集落が営まれ始めるのは７世紀後半になってからであることも確認できた。

As-B を覆土下層に堆積する住居跡

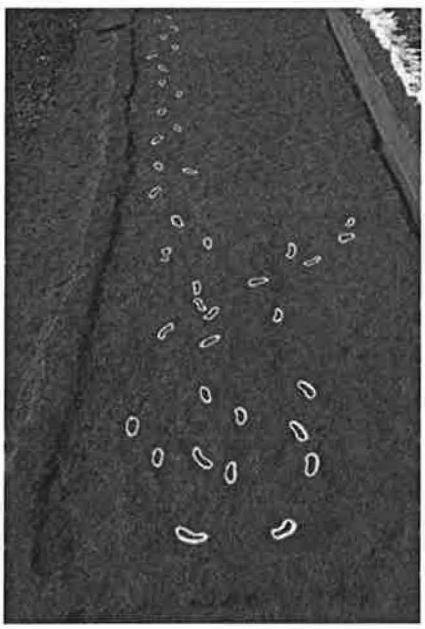
⑧川曲地蔵前遺跡 No. 4 （27A219）

川曲地蔵前遺跡 No. 4 全景

遺跡位置図

事 業 名 認定こども園建設
所 在 地 前橋市川曲町字地蔵前529-1他
調査期間 平成 28 年1 月5 日から
平成 28 年1 月29 日まで
担 当 者 岡野 茂（技研コンサル株式会社）
調査面積 1,830 ㎡
調査の経緯 平成27 年10 月28 日、開発人より試掘調査依頼書が提出され、11 月5日に試掘調査を実施した。その結果、1108 年の浅間山噴火による火山灰で覆われた平安時代末期の水田跡を確認し た。埋蔵文化財の取扱いについて協議を 行い、「現状保存」が不可能であるとこ ろから、発掘調査による「記録保存」を 実施することで開発人の合意を得た。市 教育委員会では、直営による発掘調査が 困難であるため、「群馬県内の記録保存 を目的とする埋蔵文化財の発掘調査に おける民間調査組織導入事務取扱要綱」 により市教育委員会の監理・指導のもと、技研コンサル株式会社が発掘調査を実 施することとなった。

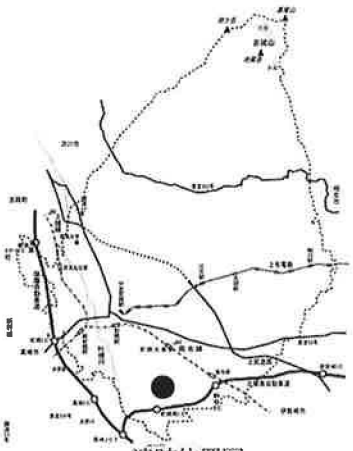
調査の成果 本遺跡からは、平安時代末の浅間山噴火による火山灰（As-B）に覆われた条里制に基づく水田跡が確認できた。



検出した馬の足跡

⑨ 朝倉・後閑水田遺跡 (26G87)

朝倉・後閑水田遺跡全景



遺跡位置図

事 業 名 病院建設

所 在 地 前橋市朝倉町389-1、後閑町59

調査期間 平成 27 年1 月28 日から

担 当 者 岡野 茂（技研コンサル株式会社）

調査面積 6,940 ㎡

調査の経緯 平成 26 年9 月4 日、開発人より試掘調査依頼書が提出され、10 月 8～20 日に試掘調査を実施した。その結果、1108 年の浅間山噴火による火山灰で覆われた平安時代末期の水田跡を確認した。埋蔵文化財の取扱いについて協議を行い、「現状保存」が不可能であるところから、発掘調査による「記録保存」を実施することで開発人の合意を得た。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」により市教育委員会の監理・指導のもと、技研コンサル株式会社が発掘調査を実施することとなった。

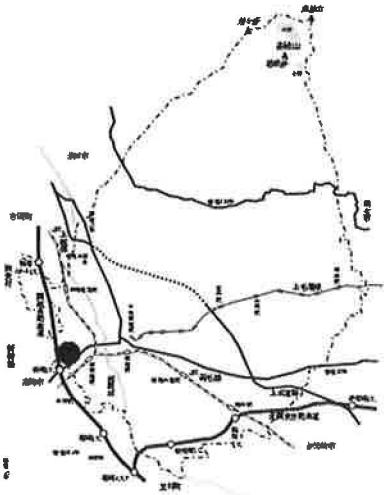
調査の成果 本遺跡からは、平安時代末の浅間山噴火による火山灰（As-B）に覆われた条里制に基づく水田跡が確認できた。

また、中近世の区画溝も確認できた。

検出した条里制水田跡

⑩元総社中学校遺跡 (27A207)

元総社中学校遺跡全景



遺跡位置図

事 業 名 体育館改築建築工事

所 在 地 前橋市総社町総社3148 他

調査期間 平成 28 年2 月8 日から
平成 28 年 3 月5 日まで

担 当 者 中村岳彦（技研コンサル株式会社）

調査面積 130 ㎡

調査の経緯 元総社中学校体育館改築建築工事に先立ち、試掘調査を実施した。試掘調査の結果、古代の集落跡が部分的 に検出された。これを受け平成 28 年 1 月 12 日付けで、当該工事に伴う埋蔵文化財発掘調査・整理業務依頼が前橋市（教育施設課）より提出された。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市と協議した。民間調査組織への業務委託については、文化財保護課の監理、指導のもと実施することとなった。平成 28 年2 月1 日付けで前橋市と技研コンサル株式会社との間で発掘調査・整理業務委託契約を締結し、発掘調査を開始した。

調査の成果 本遺跡からは、古墳時代から中世にかけての集落跡が検出された。古墳時代の住居跡4 軒、奈良時代の住居跡1 軒、平安時代の住居跡4 軒であるが、調査の主体は奈良～平安の遺構・遺物となった。当該期の遺構は、残存状態が良好であり、カマド煙道の天井部が崩落せず残っているものも見つかった。出土遺物については、奈良～平安時代 の出土遺物が充実しており、特筆すべきは緑釉陶器、灰釉陶器、鉄鉢形土器、文字瓦などが出土し、一般的な集落跡とは趣を異にしている。特に「方光」文字瓦は 、本遺跡の北に所在する「山王廃寺」に葺かれていた瓦で、出土例は少ない。

「方光」の文字瓦出土状況

⑪総社町屋敷南遺跡№3（27A214）
事業名　資料館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
所在地　前橋市総社町総社 1584-1
調査期間　　平成 27 年 7 月 13 日～23 日
調査担当者　　小峰篤・寺内勝彦・小川卓也
調査面積　38 ㎡

1　調査に至る経緯

前橋市長山本龍より、資料館建設に伴う埋蔵文化財試掘調査依頼書が平成 27 年 2 月 1 日付で提出された。平成 27 年 2 月26 日に試掘調査を行ったところ、溝が 1 条検出されたため、前橋市教育委員会と協議を行ったところ、遺構の保護層の確保が困難であることから、記録保存の措置を講じた。

2　遺跡の立地と周辺の環境

本遺跡は前橋市街地から北西方向約 4km ほどの場所にあり、群馬県を単北に貫流する利根川から西に約 1km ほどの、榛名山東単麓の扇状地の末端に位置する。本遺跡の西には史跡宝塔山古墳(2)が、東には史跡蛇穴山古墳(3)があり、両古墳の中間に位置する。周辺では総社町屋敷単遺跡(4)にて宝塔山古墳や蛇穴山古墳の周堀、古墳時代～古代の集落跡が検出されている。また、総社町屋敷単遺跡№2 でも宝塔山古墳の周堀が検出されている。

3　検出された遺構と遺物

(1)1 号溝

調査区の西側で検出された北東－単西方向へ延びる溝で、走行方位は N-26°-E である。単西部分は攪乱で壊される。溝上面の幅は 2.2~2.5m、深さは 0.27～0.4m ほどである。緩く傾斜して立ち上がり、平坦面中央で一段落ちくぼむものの、落ちくぼみの幅にバラつき、落ち込みの平面形状は不定形を呈する。底面の幅は 0.15～0.5m ほどである。覆土には暗褐色土が堆積し、覆土の上層～中層には川原石を多量に含んでおり、溝の廃棄とともに川原石が投棄された印象を受ける。川原石は安山岩を主体とし、角閃石安山岩・蛇紋岩・砂岩・礫岩・閃緑岩などが見られ、付近を流れる利根川の石材構成に類似する。覆土の中位から土師器の坏や甕の破片が出土したものの、図示には至らなかった。

(2)2 号溝

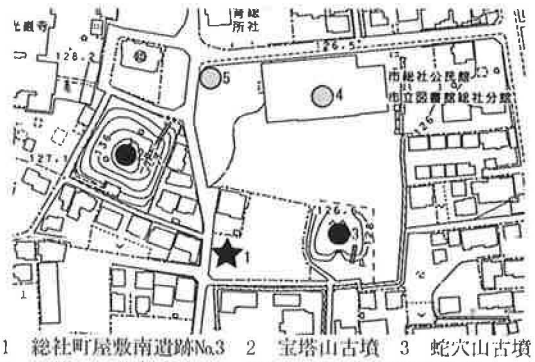
1 号溝の西約60cm ほどの場所で検出された溝で、1 号溝同様北東－単西方向に延びる。東側の立ち上がりは強く外傾し、西側の立ち上がりは調査区外である。覆土は淡褐色土が堆積し、土層の堆積状況から 1 号溝を切る。覆土内には川原石を含むものの、遺物は検出されなかった。

(3)ピット

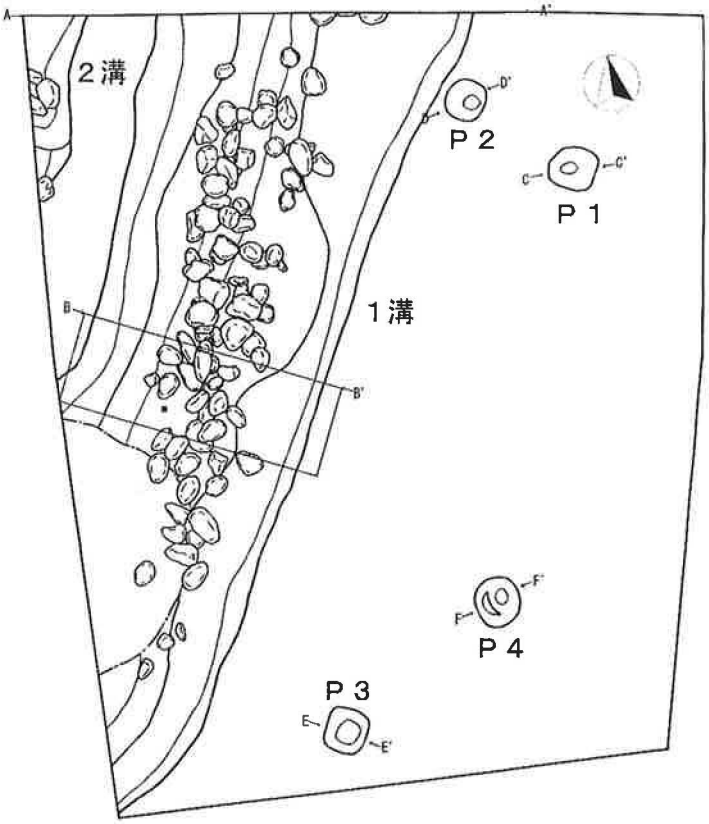
1 号溝の東側でピットが 4 基検出された。規模は 0.4m 前後で、深さは 0.3～0.4m ほどである。覆土は暗褐色土主体で、遺物は検出されなかった。

4まとめ

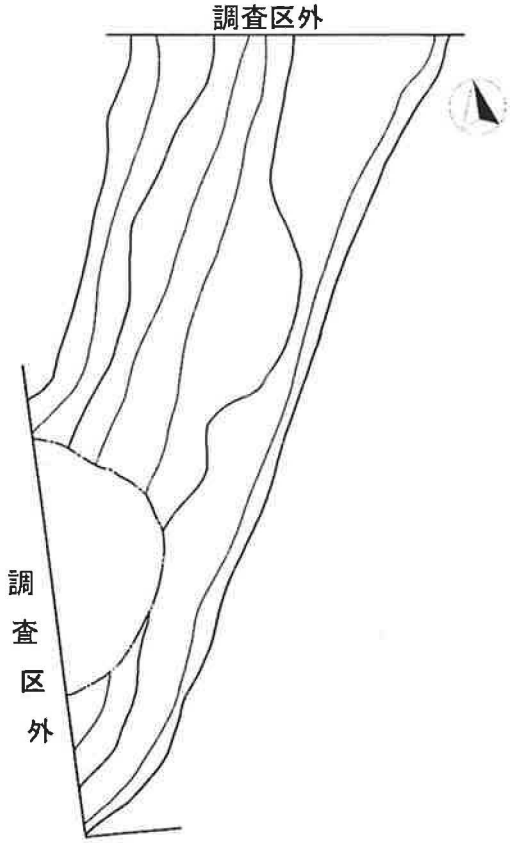
今回検出された 1 号溝は出土遺物も少なく、土層の堆積状況からも構築時期を判断する材料は得られなかった。上述のとおり本遺跡は宝塔山古墳、蛇穴山古墳という終末期の大型方墳に挟まれた場所に位置し、検出された溝跡の走行方向も総社町屋敷単遺跡で確認された宝塔山古墳の周堀に近似する。しかし、蛇穴山古墳の外周溝のような整然とした掘りかたは見られず、溝中央の掘り込みの平面形状も不定形である。また、これまでの調査では宝塔山古墳の周堀の外側を走る外周溝は確認されていない。これらのことから、1 号溝は既往の調査で確認されている中世以降の所産とみられる溝跡と同時期の遺構とし、2 号溝は 1 号溝以降につくられた溝跡と捉えたい。



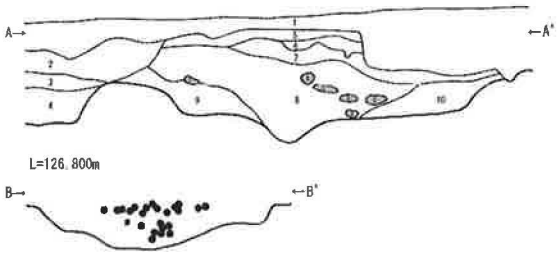
第 1 図　周辺遺跡図



第２図　調査区全体図



第３図　１号溝完掘平面図

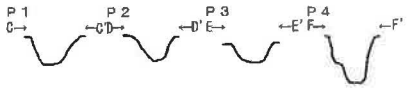


●: 礫　■: 土器　L=126.300m

土層説明（A－A'）

		締まり	粘性	
1	表　土			
2	暗褐色土	有	弱	黄褐色土ブロック少量含む。埋土。
3	褐 色 土	有	弱	炭化物微量含む。埋土。
4	淡褐色土	無	弱	褐色土ブロック少量、黄褐色土粒多量含む。礫を含む。
5	淡褐色土	強	弱	褐色土粒多量、砂粒少量含む。
6	暗褐色土	有	弱	褐色土粒少量、砂粒少量含む。
7	黒褐色土	有	有	褐色土粒少量、砂粒少量含む。
8	暗褐色土	有	有	褐色土粒少量、砂粒少量含む。礫を多く含む。
9	暗褐色土	有	弱	黄褐色土ブロック微量含む。
10	暗褐色土	有	弱	砂粒少量含む。

第４図　１・２号溝土層断面図



L=126.300m

土層説明（Ｐ１～Ｐ４）

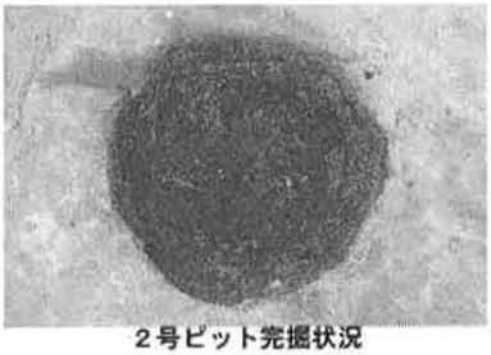
		締まり	粘性	
1	暗褐色土	無	弱	黄褐色土ブロック少量含む。
2	暗褐色土	有	弱	黄褐色土ブロック微量含む。
3	暗褐色土	有	弱	黄褐色土ブロック微量含む。
4	暗褐色土	有	弱	黄褐色土ブロック微量含む。

第５図　ピット断面図

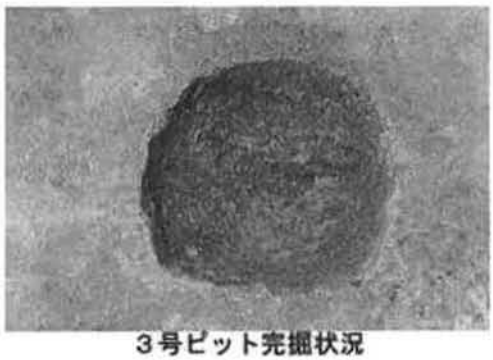
1号溝完掘状況

2号溝礫出土状況

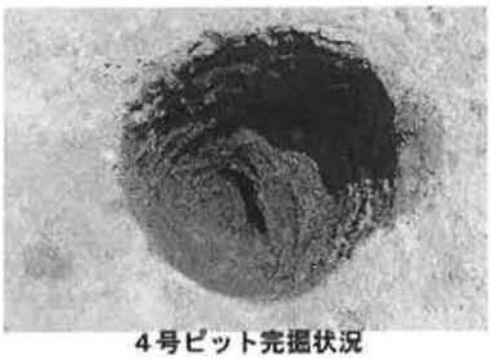
1号ピット完掘状況



2号ピット完掘状況



3号ピット完掘状況

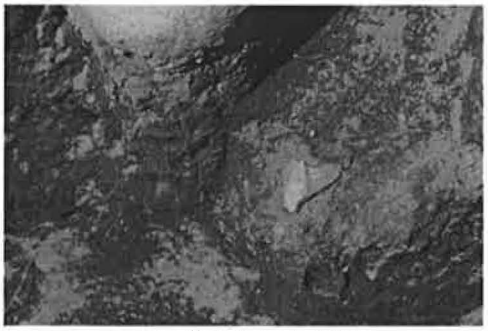


4号ピット完掘状況

調査区全体完掘状況（南より）

１号溝礫出土状況（北より）

１・２号溝土層観察状況



１号溝遺物出土状況

2　市内遺跡発掘調査事業

(1)事業の目的

試掘・確認調査の実施は、主に周知の埋蔵文化財包蔵地内外における比較的規模の大きな土木工事について、その施工により遺跡が破壊されることを未然に防ぐため、地理的状況や周辺での調査実績などを考慮し、遺構の有無、包蔵地内に至っては遺跡の範囲や残存状況などを確認することを目的とする。試掘・確認調査実施にあたっては開発者との協議を前提とし、その趣旨について理解と協力のもとに成り立っている。調査の結果、遺構や遺物等を確認した場合は、群馬県埋蔵文化財発掘調査取扱い基準に基づき、開発者と埋蔵文化財の取扱いについて協議を行う。試掘・確認調査は、埋蔵文化財の現状保存または記録保存（発掘調査）のための基礎調査の面も併せ持つと考えられる。

(2)試掘・確認調査の方法

①遺構確認のための掘削作業

工事予定地にトレンチを設定し、重機による掘削の後、人手による精査を行う。トレンチ内で埋蔵文化財の有無、またその範囲や密度、検出深度など、埋蔵文化財の内容確認を行う。試掘・確認調査面積は、開発対象面積の１割程度を基準とする。

②記録作成

掘削したトレンチ位置や検出遺構の分布状況を記したトレンチ配置図を作成する。また、調査地の基本的な土層状況を確認するため、トレンチ内の一部について深掘りし土層断面図を作成する。図面記録の他に、３５mmカラーリバーサルフィルム及びデジタルカメラを使用して写真撮影を行い、写真記録を作成する。

(3)調査結果

本年度は、別表の「平成２７年度試掘・確認調査一覧表」のとおり、試掘・確認調査を５９件実施した。このうち、３０件で埋蔵文化財を検出した。

①検出した遺構の時代

縄文時代から中近世にかけての遺構を検出した。

②検出した遺構の種類

古墳周掘、住居跡、水田跡、溝跡、堀跡等

③発掘調査を行った遺跡

ア　元総社蒼海遺跡群(17 街区)（前橋市 0142 遺跡）古代の住居跡、道路状遺構、中世の墓坑

イ　元総社蒼海遺跡群(75 街区)（前橋市 0142 遺跡）古代の住居跡

ウ　川曲地蔵前遺跡№4（前橋市 0333 遺跡）平安時代の水田跡

3　遺跡台帳整備事業

(1)前橋市遺跡地図の更新

平成１５年度から開始した遺跡地図作成事業は、平成２４年度に「前橋市遺跡分布地図」を刊行し、平成２５年度以降からも開発に伴う発掘による遺跡分布地図の更新について検討しており、継続して更新作業の実施を予定している。

(2)遺跡ＧＩＳの更新

平成２０年度から開始した遺跡 GIS 事業は平成２７年度までの遺跡分布範囲のデータ化を終了した。次年度以降も開発に伴う発掘調査の成果を遺跡 GIS へ随時更新を行い、情報を追加していく。また、重要文化財情報も GIS に搭載し、内容の充実を図っていく。

4　埋蔵文化財資料整備事業

(1) 普及パンフレット「い・せ・きワールド・in 前橋」の作成

平成 27 年度に前橋市内で実施した埋蔵文化財発掘調査の成果を広めるため、A3 版の両面印刷(両面カラー)の「い・せ・き ワールド in 前橋 2016 平成 27 年度前橋市埋蔵文化財発掘調査のまとめ」というパンフレットを作成した。作成部数は 7000 部で、両面とも写真を多く取り入れ、調査内容をわかりやすくまとめた。平成 28 年度初めに市内小・中学校並びに市立図書館、教育関係者等に配布し、埋蔵文化財に関する啓発活動の資料として普及に役立てた。

「い・せ・き ワールド in 前橋 2016」　表面

「い・せ・き ワールド in 前橋 2016」　裏面

(2)　出土資料の活用（貸出展示）

・十日町市博物館（新潟県）
陣場遺跡(11 号土坑出土)注口土器

・伊勢崎市教育委員会(伊勢崎市)
頭無遺跡旧石器、五代深堀Ⅰ遺跡 No2 土器
五代伊勢宮Ⅳ遺跡土器、五代伊勢宮Ⅵ遺跡土器、五代伊勢宮遺跡Ⅱ遺跡土器

・岩宿博物館(みどり市)
蒼海城跡出土(陶磁器類・かわらけ・火鉢・内耳鍋・温石)、大胡城跡出土(陶磁器類・かわらけ・内耳鍋・焙烙・擂鉢・金属器類)

・高崎市教育委員会(高崎市)
「放光寺」の文字が書かれた瓦の写真

(3)　貸出用資料の整備（写真・遺物・図面）

展示や貸出に頻繁に利用する遺物・写真などの資料を利用しやすくするため遺物と報告書の実測の写しを一緒に管理するなどの整備を行った。

(4)鳥羽収蔵庫資料展の開催

旧文化財保護課（三俣町）で保管・管理してきた埋蔵文化財資料、民具資料等について、平成26 年度に旧群馬県工業試験場（鳥羽町）を鳥羽収蔵庫として整備し、移転作業を行った。鳥羽収蔵庫で保管・管理する資料は相当な数に上り、資料的価値の高いものも多く、資料活用や文化財保護への啓蒙の観点から、平成 27 年11月8日に収蔵資料展と題し一般公開展示を開催した。主な展示内容は、現在施工中の元総社蒼海地区土地区画整理事業に伴い、十数年に及ぶ発掘調査で出土した遺物を年代別に展示し、また五代工業団地内での発掘調査で出土した縄文土器群を、平成 26 年度調査成果速報として展示した。公開日当日は小雨の降るあいにくの天候であったが、多くの見学者に来場いただいた。

(5)　展示成果

元総社公民館 芳賀公民館 サンデンファシリティ
けやきウォーク前橋 大室公園

①　元総社公民館
元総社地区の土地区画整理に伴う発掘調査の成果である壷や高盤などの出土遺物、上野国府に関連する人形や墨書土器などの福製品、写真などの展示を行った。

②　芳賀公民館
芳賀地区は縄文時代の遺跡が多数調査されている。芳賀地区から出土した縄文土器、縄文土器の変遷などの開設パネル、発掘調査写真などの展示を行った。

③　サンデンファシリティ
見学者体験教室「森の教室」に縄文土器や石器、土師器、須恵器などの遺物、発掘調査状況や住居、墓などから遺物が見つかった様子など撮った写真パネルを展示した。

④　けやきウォーク前橋
平成２３年度の発掘調査で出土した古銭や丸鞆(ベルトの飾り)などの出土遺物、市民プロジェクト作成の金銅製冠を引き続き展示したほか、大室古墳教室製作の装飾壷、脚付装飾壷、馬具(双葉剣菱形杏葉)４点、縄文耳飾り３点による展示替えを行った。

⑤　大室公園
大室古墳群公開・普及イベント2015「ワクワク☆大室古墳群！」において、大室古墳教室で製作した製作品の展示を民家園内の大室はにわ館で行った。

(6)発掘調査資料の整理作業

堀越甲真木B 遺跡の旧石器時代の石器の整理作業を平成 26 年度から継続して実施している。 堀越甲真木B 遺跡は、堀越町530-2 にあり標高 165mの台地上に立地する。調査は、平成14 (2002) 年度に遊技場駐車場造成にともなって旧大胡町教育委員会が実施した。関東ローム層 AT 下から 1693 点の旧石器が発見された。本市はもとより関東地方の旧石器を研究する上で極めて貴重な資料であるが未整理となっていた。

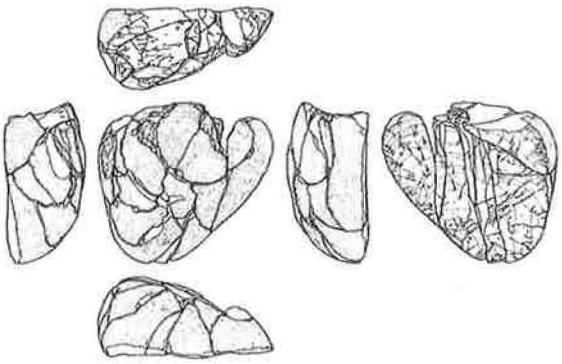
①平成 25 年度に器種認定、大きさ、重さ、石材等の台帳作成を行った。

②平成 26 年度には石器接合作業、石器実測、分布図作成作業を行った。（年報 45 参照）

③平成 27 年度は接合資料 41 個体の実測とトレースとナイフ形石器などの石器トレース、遺物分布図、器種別分布図、石材別分布図、石器接合図などの作成を行った。なお、報告書は図版編と本文編の2 分冊で作成予定である。

④平成 28 年度には図版編の編集、石器写真撮影、⑤平成 29 年度に本文編の作成を予定している。報告書については PDF ファイルで作成をしておき必要に応じて印刷する予定である。

すでに認定した器種はナイフ形石器 26、削器 45、掻器1、彫器1、揉切器1、楔形石器1、敲石8、磨石1点であるが、今後、詳細な器種認定を実施するため若干の変更が生ずる。石材は黒色安山岩 783 点・15kg、黒曜石 688 点・1.7kg、黒色頁岩174 点・5.4kg が主な石材である。接合資料については別表のとおりである。



堀越甲真木B 遺跡接合資料 001 実測図

堀越甲真木B地点遺跡接合台帳

接合資料No.	石材名	個別番号	点数
001	黒色安山岩	1549+1550+1551+1552+1553+1555+1556+1557+1558+1559+1560+1562+1563+1564+1565+1566+1567+1568+1569+1570+1571+1572+1573+1574+1575+1576+1577+1578+1579+1580+1581+1582+1583+1584+1586+1608+1612+1614+1698	40
002	黒色安山岩	553+611+687+710+714+715+721+727+737	9
003	黒色安山岩	1587+1588+1589+1599+1600+1602+1604+1605+1607+1615+1630+1631+1639+1683+1684+1686+1699	17
004	黒色安山岩	848+860+878+880+891+968+979+981+992+996	10
005	黒色安山岩	877+882+884+885+887+994+1006	7
006	黒色安山岩	1623+1624+1625+1626	4
007	黒色安山岩	1667+1670+1671	3
008	黒色安山岩	845+859+895+970	4
009	黒色安山岩	840+847+986+995	4
010	黒色安山岩	61+215+218+224	4
011	黒色安山岩	201+361+362+367+368	5
012	黒色安山岩	33+102+135+570	4
013	黒色安山岩	1185+1208+1209+1216	4
014	黒色安山岩	642+652+785	3
015	黒色安山岩	602+658+782	3
016	黒色安山岩	434+437+447	3
017	黒色安山岩	198+212	2
018	黒色安山岩	596+774	2
019	黒色安山岩	662+696	2
020	黒色安山岩	702+781	2
021	黒色安山岩	466+492	2
022	黒色安山岩	112+115	2
023	黒色安山岩	457+617	2
024	黒色安山岩	213+214	2
025	黒色安山岩	731+744	2
026	黒色安山岩	409+435	2
027	黒色安山岩	216+226	2
028	黒色安山岩	169+792	2
029	黒色頁岩	369+391+392+418+425+450+580	7
030	黒色頁岩	144+152+440+490	4
031	黒色頁岩	1661+1663+1650	3
032	黒色頁岩	1662+1664+1688	3
033	黒色頁岩	51+338+342	3
034	黒色頁岩	94+197+344	3
035	黒色頁岩	1054+1533	2
036	黒色頁岩	628+706	2
037	黒色頁岩	1069+1293	2
038	黒色頁岩	90+183	2
039	黒色頁岩	1668+1674	2
040	黒色頁岩	1643+1687	2
041	粗粒安山岩	716+1343	2
042	黒曜石	353+1040+1457	3
043	黒曜石	1418+1436+1545	3
044	黒曜石	1373+1476	2
045	黒曜石	1260+1493	2
046	黒曜石	479+813	2
047	黒曜石	1404+1460	2
048	黒曜石	1459+1470	2
049	黒曜石	431+444	2
050	黒曜石		2
051	黒曜石		2

5　文化財資料管理

(1) 寄贈図書用務・報告書一斉送付

平成２７年度は、他教育委員会、他自治体、各埋蔵文化財調査団体及び個人等から寄贈図書があった。この寄贈に対する返礼と前橋市の文化財保護行政の周知のため、３月に『年報 第４５集 平成２６年度文化財調査報告書』他１０冊を２０６ヶ所に送付した。

(2)　写真資料・図面資料・書籍資料のデジタル化に関すること

劣化していく写真ネガをデジタル化保存し、資料の保存を図り、資料の活用の利便性を目的とする。平成２７年度は山王廃寺の調査写真（35㎜36 枚取、約100 本）に関するデジタル化、群馬大学尾崎研究室調査図面の本市関係 50 遺跡のデータ化を行なった。さらに塑像に関する各種文献をｐｄｆ化して利便性を図れるようにした。

6　上野国府等保存整備事業

(1)　上野国府等調査委員会の実施概要

元総社町に存在したとされる上野国府の国庁や諸施設の概況を把握するための発掘調査を平成２３年度から「上野国府等範囲内容確認 調査事業」として実施している。本事業を推進 するにあたり、上野国府等調査委員会において、上野国府とそれに密接な関係をもつ周辺遺跡 の調査計画と整備内容の検討を十分に行ない ながら事業を実施してきた。

本年度は５か年計画の最終年にあたる。５か年の調査成果を総括し、次年度から始まる第２期５か年計画の方針を決定するため、以下のとおり委員会を開催した。

(2)　第２３回上野国府等調査委員会

開催日 平成２８年２月２５日（木）

開催場所 文化財保護課

《報告》

①平成２７年度元総社蒼海遺跡群発掘調査の成果について

②平成２７年度上野国府等範囲内容確認調査の成果について

《協議内容》

①第１期上野国府等範囲内容確認調査の成果について

②第２期上野国府等範囲内容確認調査事業計画について

③平成２８年度上野国府等範囲内容確認調査事業計画について

《主な意見》

・今までの調査で検出した遺構を時代毎、種類毎（ただの竪穴住居か国府関連建物・構築物か）に分けて、全体図に落とし、その変遷や国府的要素の濃淡を可視化する必要がある。

・今出ている遺構を検討したうえで、関連がある箇所を掘る。

・新しいところに手を出すのではなく、既調査地の残課題を確実に潰していく調査をしていただきたい。

・発掘調査だけでなく道路や住宅建設に伴う掘削工事等からもヒントになる情報を集める。

・重要遺跡として調査した箇所が記録保存に なるのは違和感がある。現状保存が望ましい。

・第２期調査が終ったから次の５ヶ年調査へというように安易に調査の延長はできない。市民への説明を念頭に定期的に調査成果をまとめ、検討すべきである。

調査委委員会での検討の様子

あ と が き

私ども、文化財保護課の平成２７年度のすべての仕事とその成果を網羅した年報第４６集をお届けする。私ども文化財保護課の職員が、地道に積み上げ、蓄積し、そして結実させた成果の記録である。特に、重要文化財 阿久沢家住宅の整備事業は、合併後、旧所有者との息の長い交渉の結果であり、新総社資料館の建設事業は、資料館の再開を熱望する地元の方々と文化庁との間でタイトなやり取りを行ってきた結果である。私どもの仕事、文化財保護行政は、花火のように大きな輝きを一瞬もたらすものではない。絶えず熾火のように消えそうになりながら、ひとたび、風があればまた大きな炎となるそんな仕事でもある。そんな、文化財保護の仕事の一端でも皆さんに知っていただければ幸いである。

平成 28 年 3 月 29 日

文化財保護課長　小島　純一

平成 27 年度

前橋市文化財調査委員

井上　唯雄
大森　威宏
岡田　昭二
能登　　健
村田　敬一

文化財保護課職員

文化財保護課長	小島　純一
文化財保護係	
文化財保護係長	岩瀬　孝弘
副主幹	大澤　範之
副主幹	登山　伸一
副主幹	江黒　啓一
主任	齊藤　直樹
〃	小沼　安美
〃	宮沢　竜一
〃	小川　卓也
専門員	前原　　豊
職託員	中島　侑子
臨時職員	中澤　文香
埋蔵文化財係	
埋蔵文化財係長	梅澤　克典
副主幹	倉地　啓仁
副主幹	並木　史一
主査	福島　浩樹
主任	藤坂　和延
〃	小峰　　篤
〃	渡辺　亮介
〃	福田　貫之
〃	阿久澤智和
〃	寺内　勝彦

年報 第 46 集 平成 27 年度文化財調査報告書
平成 28 年 3 月発行発
行 前橋市教育委員会事務局 文化財保護課
前橋市総社町三丁目１１－４

表紙　元総社小学校校庭で確認された大型掘立柱建物